



shaping your dreams

2026年11月期 第1四半期 決算説明資料

オーエスジー株式会社
2026年4月



目次

- ◆ P2-3 [決算ハイライト](#)
- ◆ P4-5 [会社概要](#)
- ◆ P6-7 [決算概要](#)
- ◆ P8-9 [外部顧客への売上高（セグメント別）](#)
- ◆ P10-11 [セグメント利益](#)
- ◆ P12-13 [製品別売上高](#)
- ◆ P14 [海外売上高](#)
- ◆ P15 [営業利益の増減分析](#)
- ◆ P16 [BS主要指標とBS概要](#)
- ◆ P17 [設備投資・減価償却費](#)
- ◆ P18 [2026年11月期 業績予想](#)
- ◆ P19 [株主還元方針](#)
- ◆ P20 [為替レート](#)
- ◆ P21 [業績・経営指標](#)
- ◆ P22 [OSGグループネットワーク](#)
- ◆ P23- [中期経営計画](#)

決算ハイライト (1/2)

P/L

売上高、営業利益、経常利益、純利益ともに
第1四半期としては過去最高を更新
多くの地域・国で需要環境は改善傾向

BS

棚卸資産が前期末比2,562百万円増加
うち、為替要因 +4億円
仕掛品は需要改善に伴う流動数の増加
原材料は価格高騰に伴う増加

リスク
と
対策

リスク

中国の輸出規制に伴い、超硬製品の原材料となる
タングステン価格が急騰

対策

特殊品：都度見積りにより原材料コストの変動を反映
標準品：一部地域において販売価格の見直しを実施

KEYとなる指標

売上高

426億円

前年同期比：+12.8%

営業利益

61億円

前年同期比：+57.9%

営業利益率

14.4%

前年同期比：+4.1pt

EPS

61.35円

前年同期比：+99.6%

EBITDA

96億円

前年同期比：+33.7%

EBITDAマージン

22.6%

前年同期比：+3.5pt

自己資本比率

68.8%

前期末比：+1.2pt

ROE

11.1%

前年同期比：+4.8pt

決算ハイライト (2/2)

米州

米国経済は堅調で、一般部品、航空・防衛関連の売上が増加し、利益率は改善。新規案件の獲得が進む。

アジア

中国の製造業は堅調で受注環境は良好。中国の製造部門の稼働率が上がり利益率が一段と改善。インド、タイ、シンガポールが好調。

欧州・アフリカ

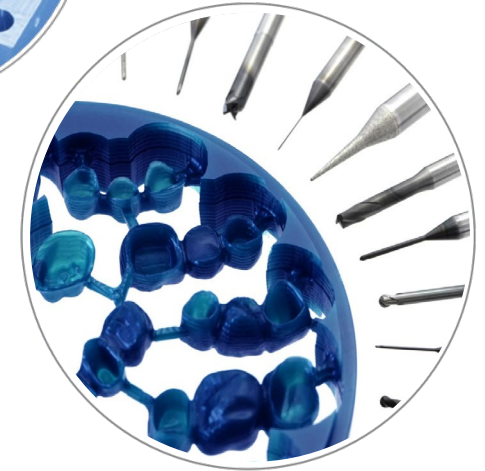
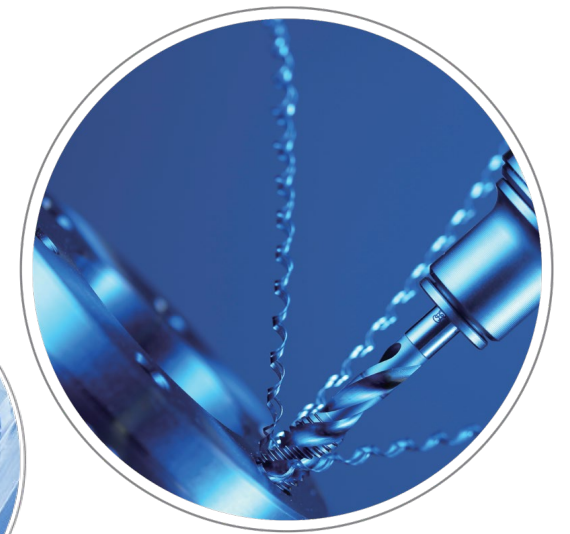
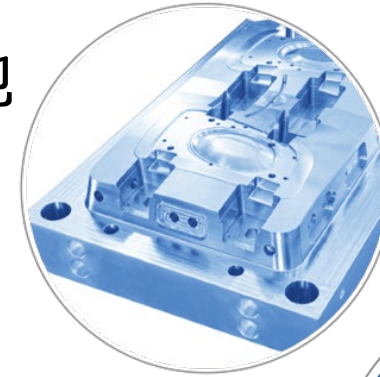
欧州経済は引き続き回復基調で、当社のドイツ拠点も回復傾向。航空機、エネルギー、医療関連が好調。

日本

景況感に大きな変化はないものの、重電・エネルギー、航空・防衛関連の売上が増加。医療関連は好調。グループ会社の利益改善が進む。

会社概要

商号 オーエスジー株式会社
本社 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地
設立 1938年3月26日
資本金 130億44百万円
従業員数 連結7,512名、単体1,835名
事業内容 切削工具、転造工具の製造販売
上場市場 東証プライム・名証プレミア (証券コード 6136)



注意事項

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報からの判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確定な要素を含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

会社概要

製品

- ・主に工作機械で使われる消耗工具
- ・創業製品である**タップ**は
世界トップシェア（約30%超）

OSGの強み

- ・高付加価値製品を生み出す高い技術力
- ・堅固なお客様サポート体制
- ・世界35カ国に渡る
グローバルネットワーク

形を削り出す工具

エンドミル
(ミーリングカッター)

穴をあける工具
ドリル

形を削り出す工具
インデキサブル工具



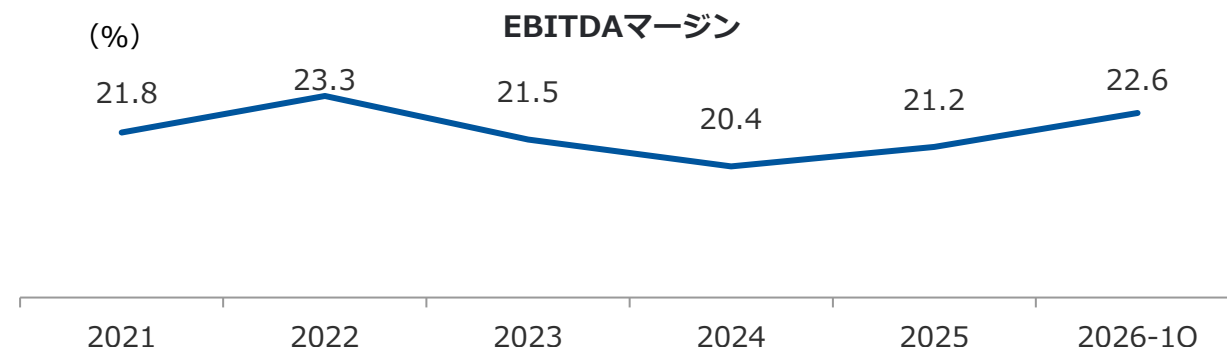
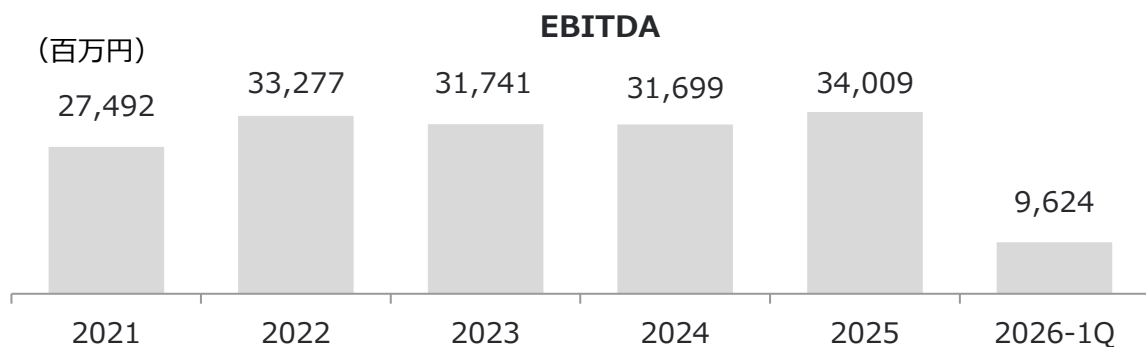
ねじを加工する工具
転造ダイス

ねじ穴をつくる工具
タップ
(ねじ切り工具)

決算概要

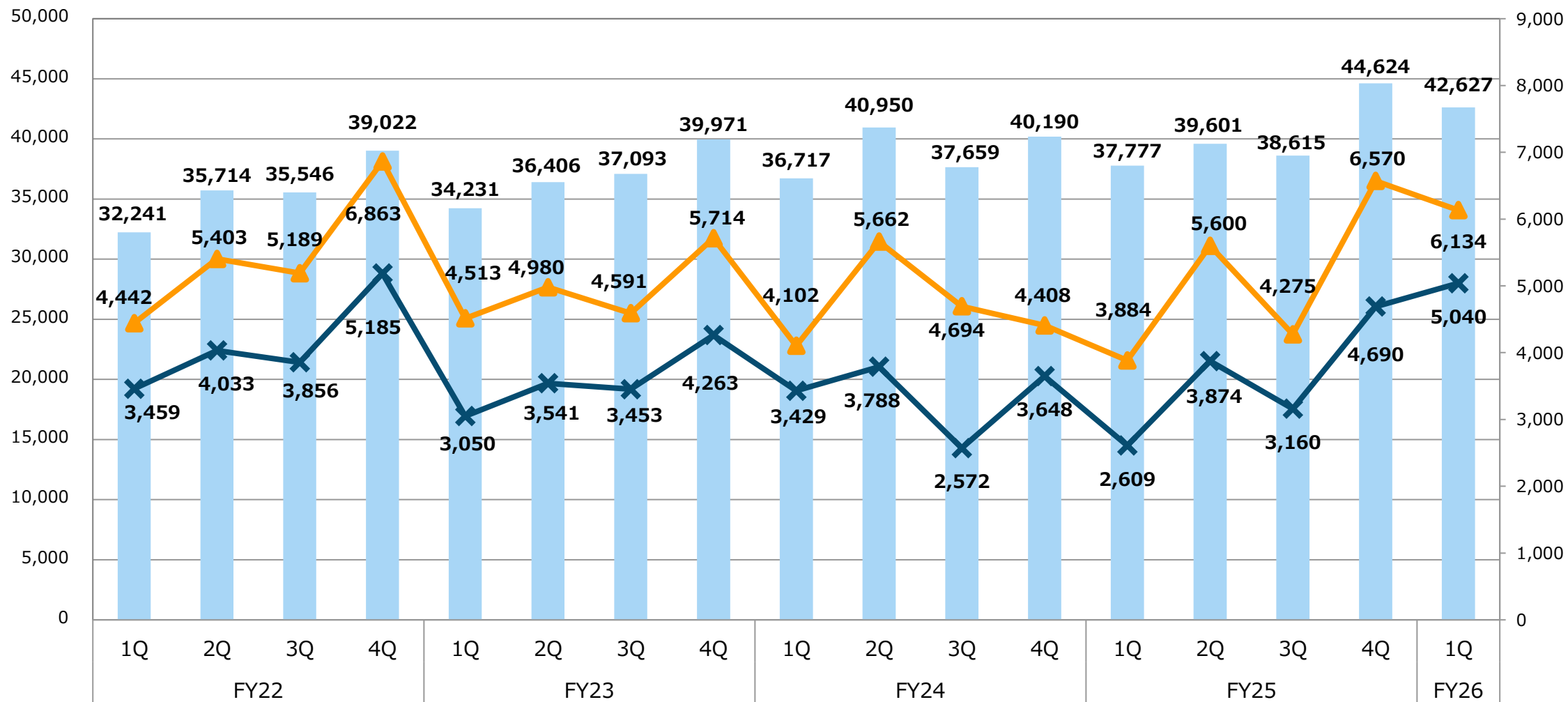
(百万円)

	FY25 1Q	FY26 1Q	前年同期比		FY26 上期予想	進捗率
売上高	37,777	42,627	4,849	+12.8%	81,300	52.4%
営業利益	3,884	6,134	2,249	+57.9%	10,350	59.3%
営業利益率	10.3%	14.4%	4.1pt	-	12.7%	-
経常利益	4,155	6,694	2,538	+61.1%	10,850	61.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,609	5,040	2,430	+93.2%	7,200	70.0%
EPS (円)	30.73	61.35	30.62	+99.6%	87.64	-
EBITDA	7,200	9,624	2,423	+33.7%	-	-
EBITDAマージン	19.1%	22.6%	3.5pt	-	-	-



決算概要

(百万円)



■ 売上高 (左・棒)

▲ 営業利益 (右・折線)

✕ 親会社株主に帰属する当期純利益 (右・折線)

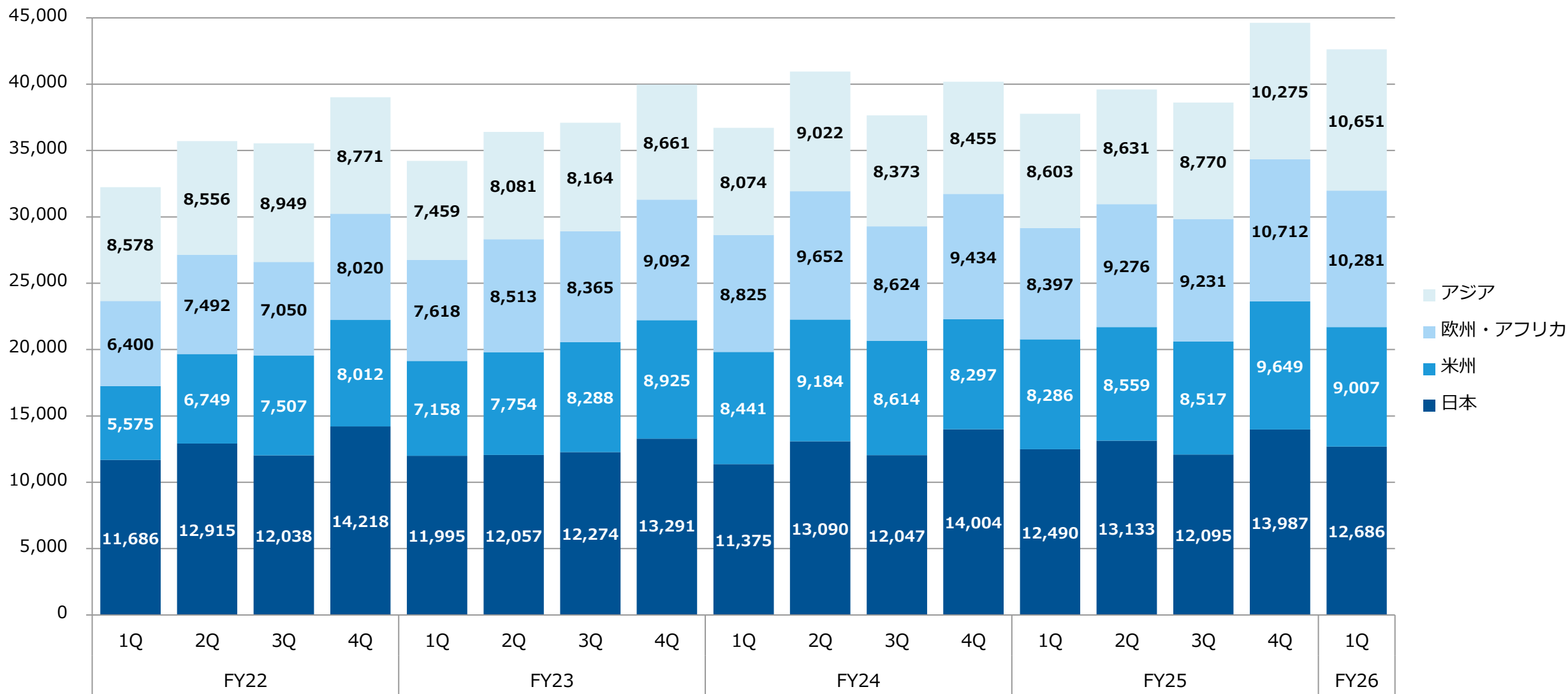


外部顧客への売上高（セグメント別）

	FY25 1Q	FY26 1Q	増減額	前年同期比	(百万円) 現地通貨ベース 前年同期比
日本	12,490	12,686	196	+1.6%	-
米州	8,286	9,007	720	+8.7%	+6.5%
欧州・アフリカ	8,397	10,281	1,884	+22.4%	+7.9%
アジア	8,603	10,651	2,048	+23.8%	+18.9%
連結	37,777	42,627	4,849	+12.8%	-

外部顧客への売上高推移（セグメント別）

(百万円)



セグメント利益

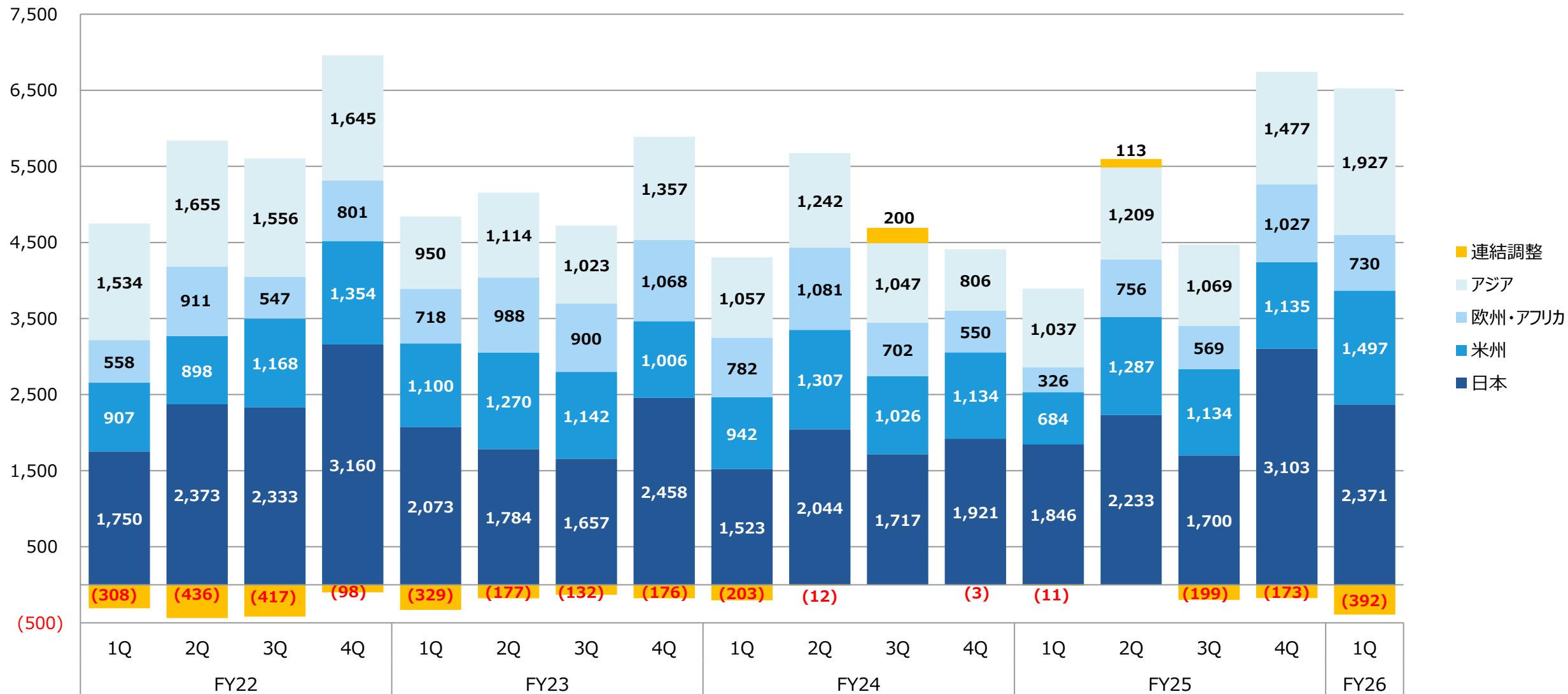
(百万円)

	FY25 1Q	FY26 1Q	増減額	前年同期比
日本	1,846	2,371	524	+28.4%
利益率	10.2%	12.3%	2.1pt	
米州	684	1,497	812	+118.7%
利益率	8.1%	16.3%	8.2pt	
欧州・アフリカ	326	730	403	+123.3%
利益率	3.8%	7.0%	3.2pt	
アジア	1,037	1,927	890	+85.8%
利益率	10.9%	16.2%	5.3pt	
計	3,895	6,526	2,631	+67.5%
調整	-11	-392	-381	-
連結	3,884	6,134	2,249	+57.9%

※利益率は「外部顧客への売上高」と「セグメント間の内部売上高又は振替高」の合計に対する営業利益率

セグメント利益推移

(百万円)



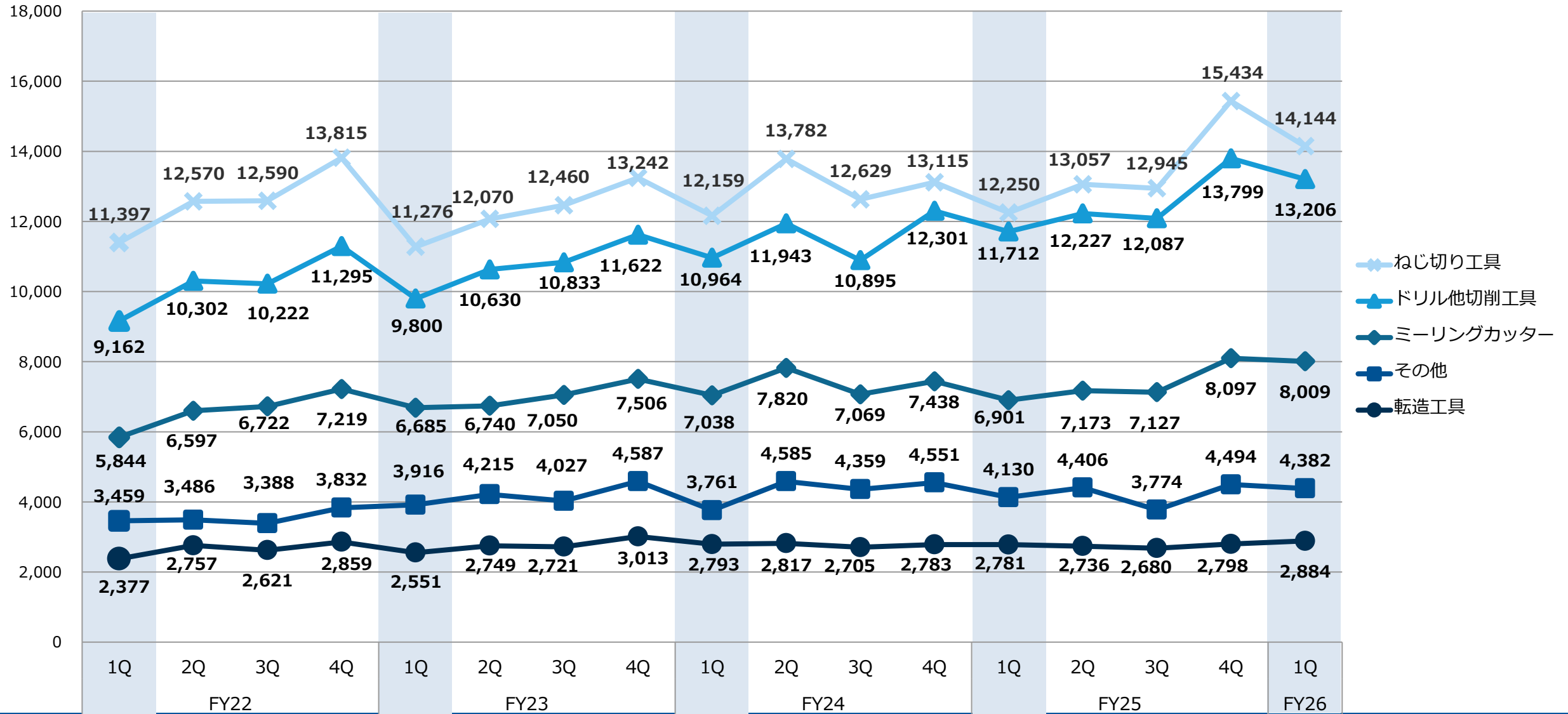
製品別売上高

(百万円)

		FY25						FY26		前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期		1Q		増減	
精密工具	ねじ切り工具	12,250	13,057	12,945	15,434	53,688	33.4%	14,144	33.2%	1,893	15.5%
	ミーリングカッター	6,901	7,173	7,127	8,097	29,300	18.2%	8,009	18.8%	1,107	16.1%
	ドリル他切削工具	11,712	12,227	12,087	13,799	49,826	31.0%	13,206	31.0%	1,493	12.8%
	転造工具	2,781	2,736	2,680	2,798	10,996	6.8%	2,884	6.8%	102	3.7%
	測定工具	517	538	549	538	2,144	1.3%	495	1.2%	-22	-4.3%
	計	34,164	35,733	35,390	40,668	145,957	90.9%	38,739	90.9%	4,575	13.4%
その他	機械	1,344	1,600	822	1,516	5,283	3.3%	1,008	2.4%	-335	-24.9%
	その他	2,269	2,267	2,401	2,439	9,377	5.8%	2,878	6.8%	609	26.8%
	計	3,613	3,868	3,224	3,955	14,661	9.1%	3,887	9.1%	273	7.6%
	合計	37,777	39,601	38,615	44,624	160,619	100%	42,627	100%	4,849	12.8%

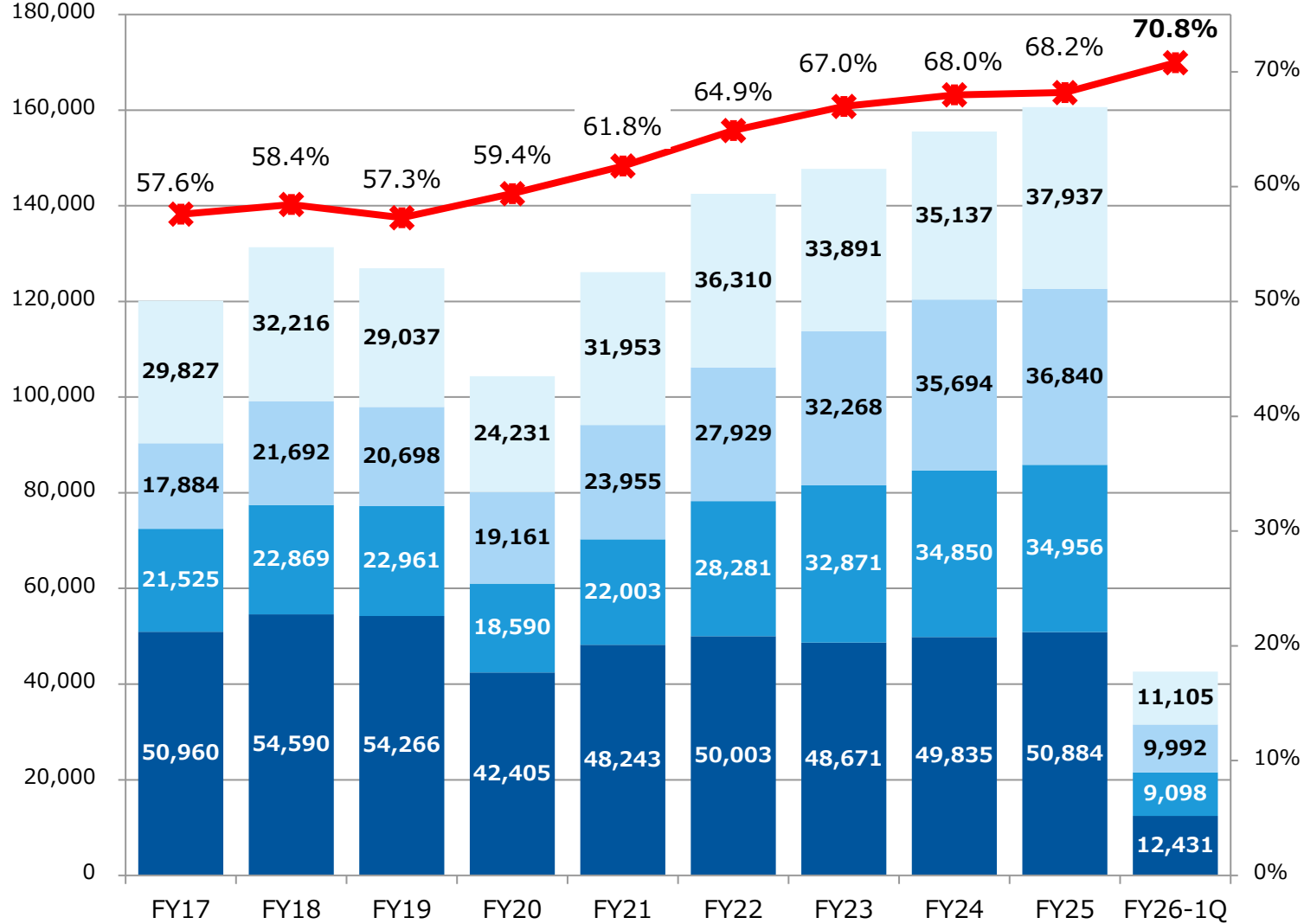
製品別売上高推移

(百万円)



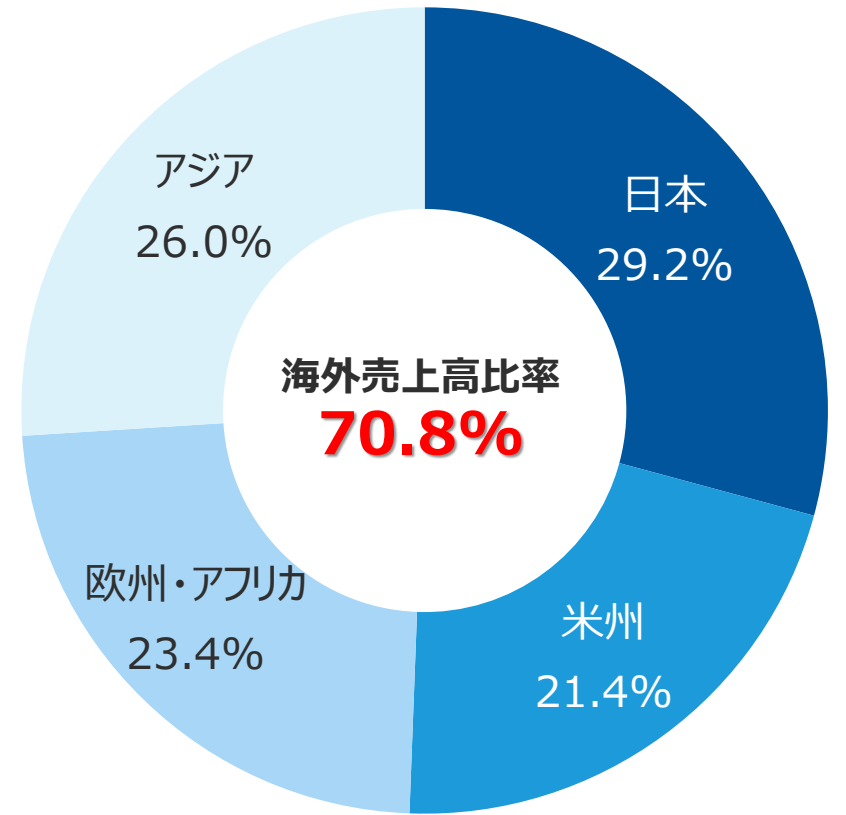
海外売上高の推移

(百万円)

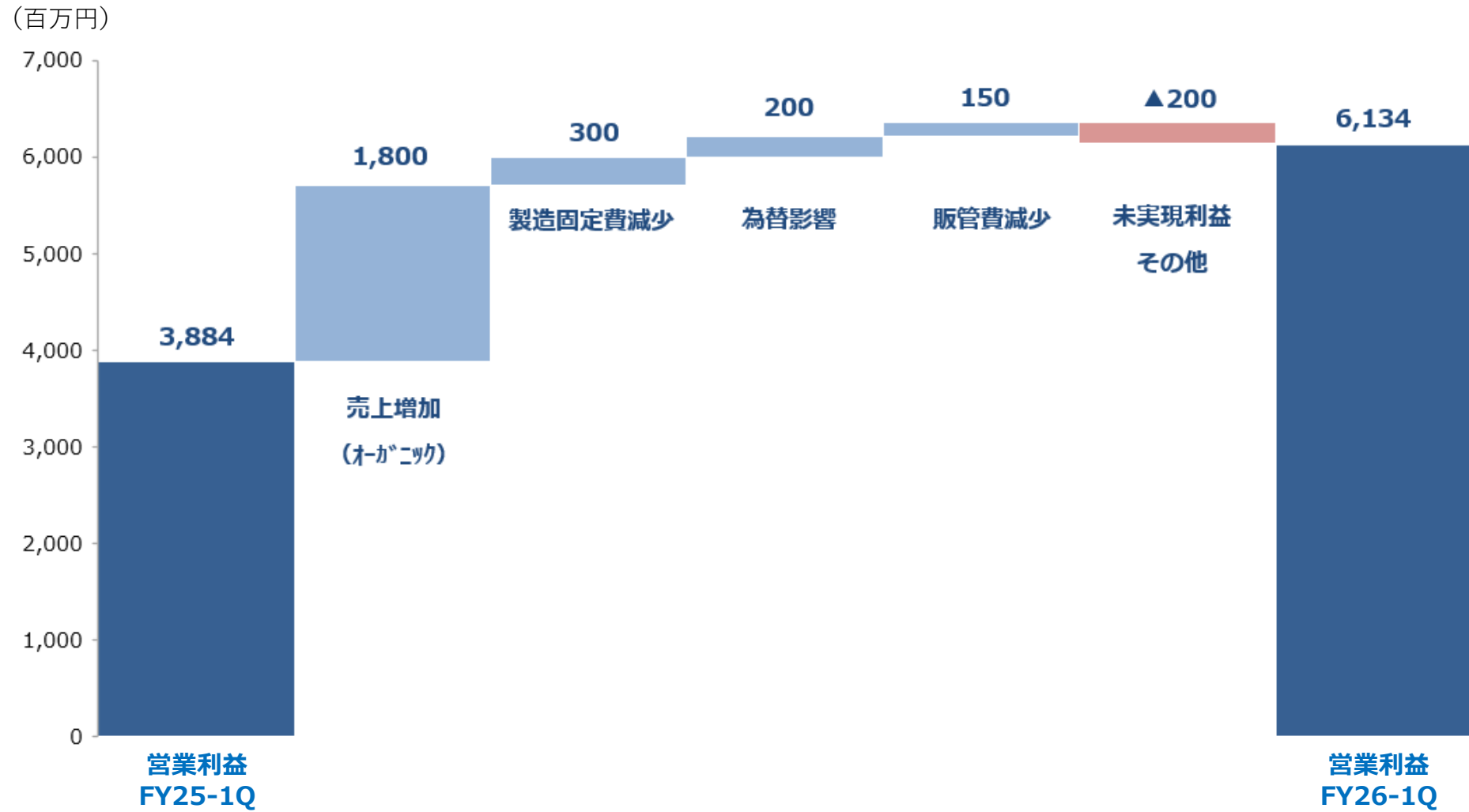


■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州・アフリカ ■ アジア * 海外売上高比率

FY26-1Q



営業利益の増減分析

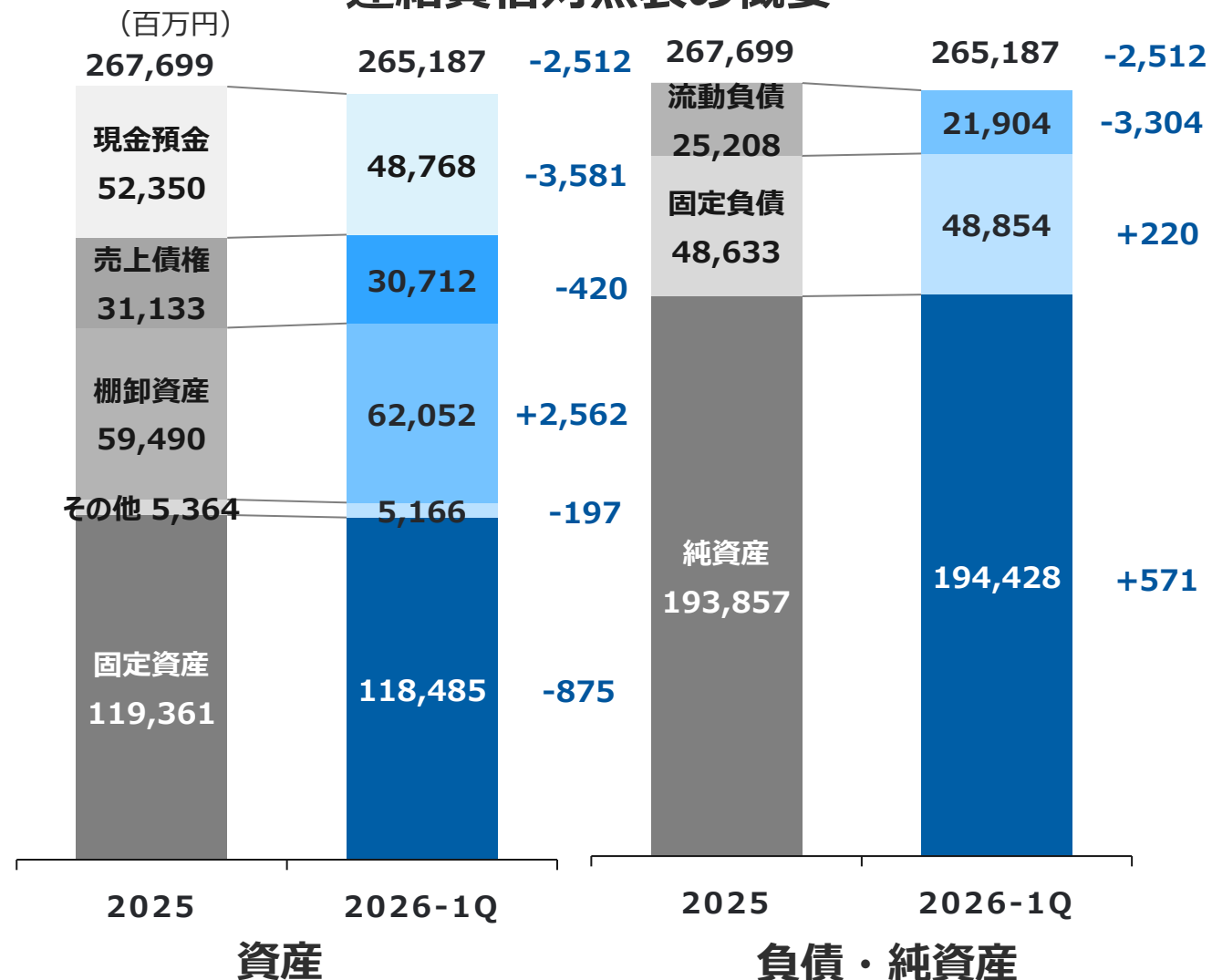


BS主要指標とBS概要

BS主要指標

Net Cash 4,635 百万円 (FY25末 7,392百万円)	売上債権回転期間 2.2 ヶ月 (FY25末 2.4ヶ月)
現金預金 48,768 百万円 (FY25末 52,350百万円)	棚卸資産回転期間 4.4 ヶ月 (FY25末 4.5ヶ月)
有利子負債 44,133 百万円 (FY25末 44,957百万円)	自己資本比率 68.8% (FY25末 67.5%)

連結貸借対照表の概要



設備投資・減価償却費

2026年度 設備投資予想

約**120億**円

設備投資実績

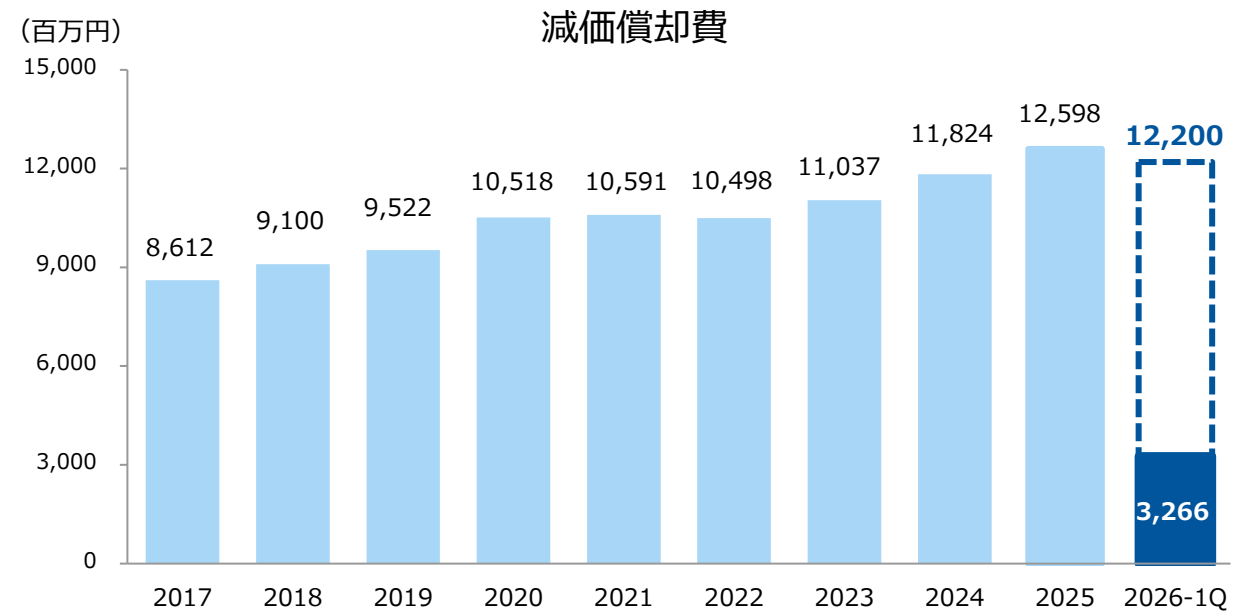
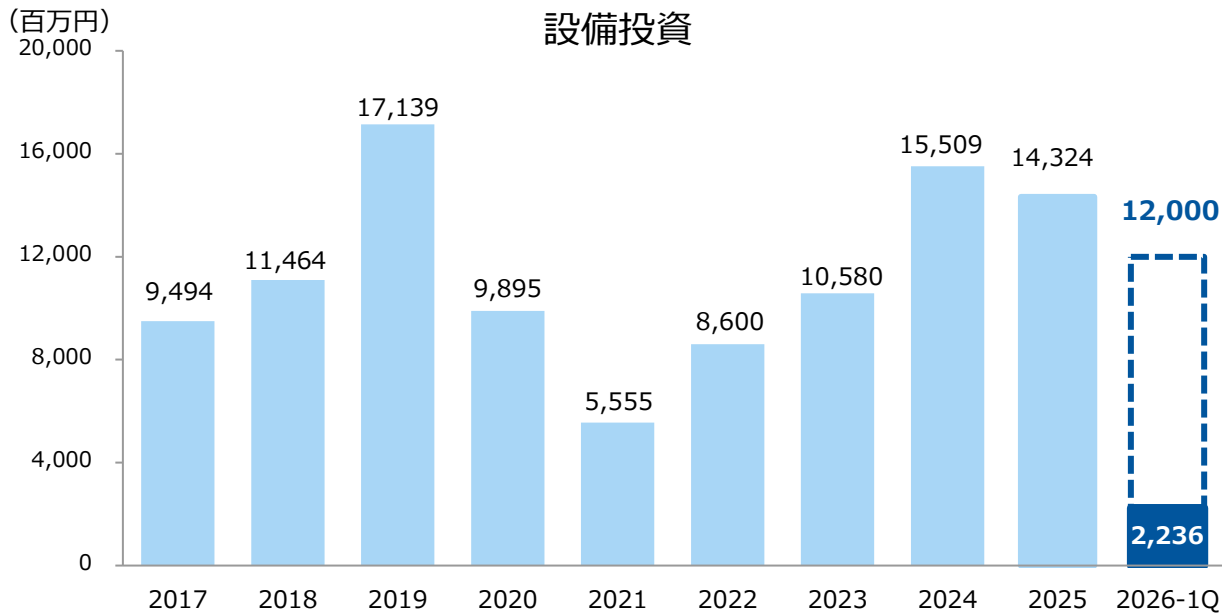
2,236百万円

Breakdown

▶▶▶▶▶
 前期末検収の約7億円を含む
 超硬エンドミルの新大池工場Ⅱ期工事、機械設備等

減価償却費実績

3,266百万円



2026年11月期 業績予想

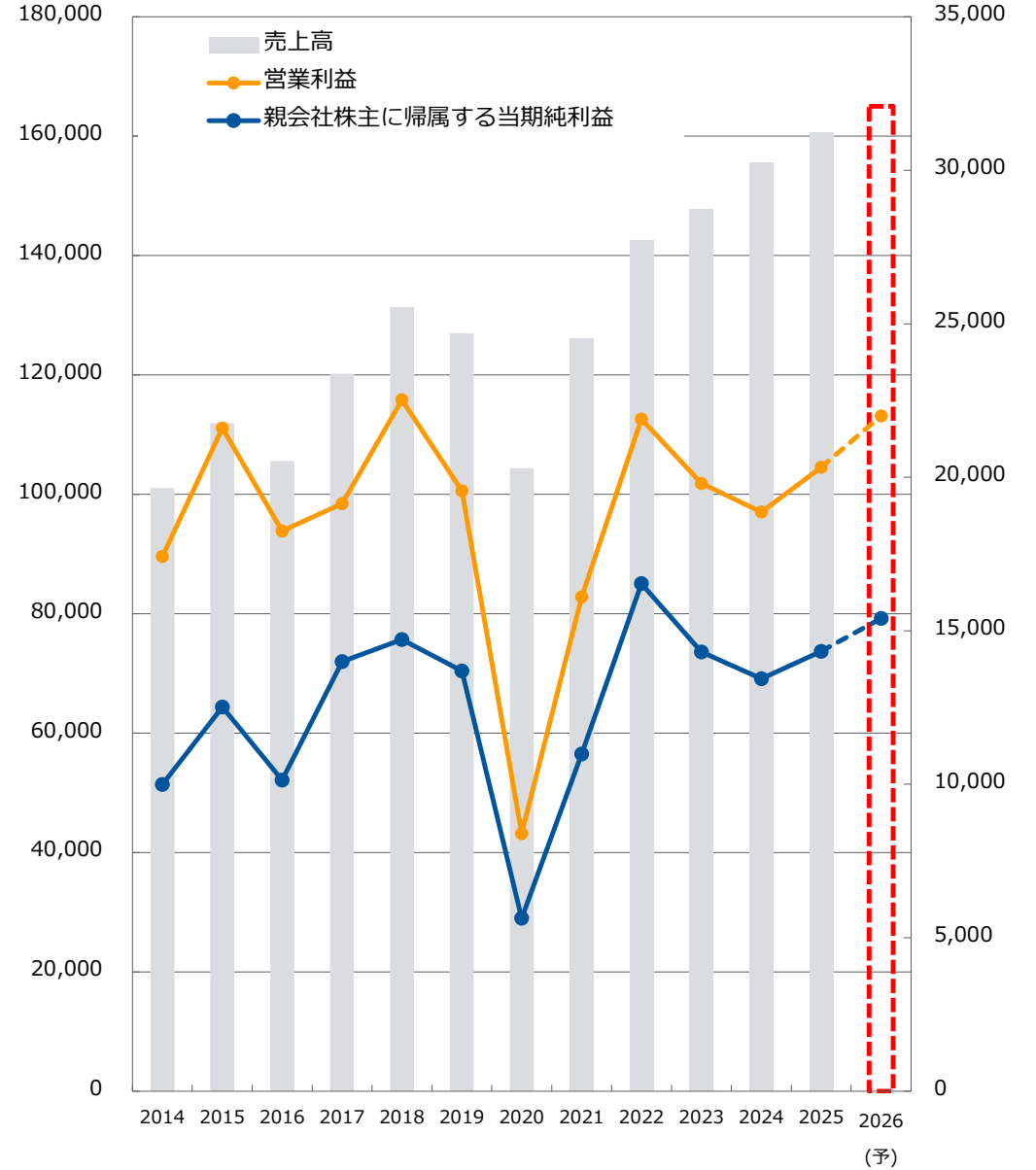
	連結		単体	
	(百万円)	前期比	(百万円)	前期比
売上高	165,000	+2.7%	60,000	+3.1%
営業利益	22,000	+8.2%	6,500	+2.0%
対売上比	13.3%	-	10.8%	-
経常利益	23,000	+2.9%	15,000	+9.8%
対売上比	13.9%	-	25.0%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	15,400	+7.4%	12,900	+12.4%
対売上比	9.3%	-	21.5%	-
EPS (円)	187.46	+8.9%	156.95	+13.9%

FY2026 予想前提レート： 1US\$=150円 1Euro=170円

売上高
(百万円)

連結業績

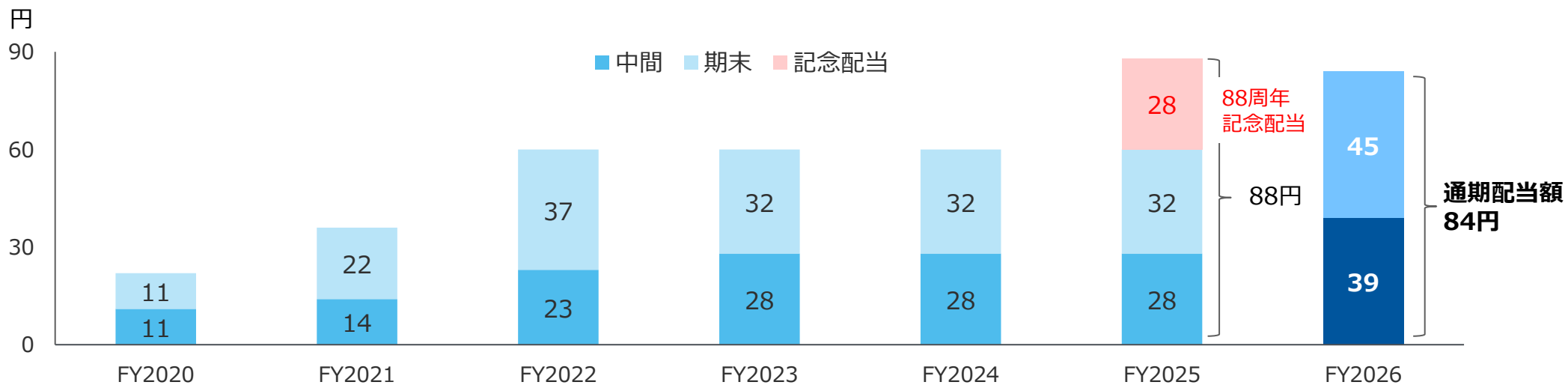
利益
(百万円)



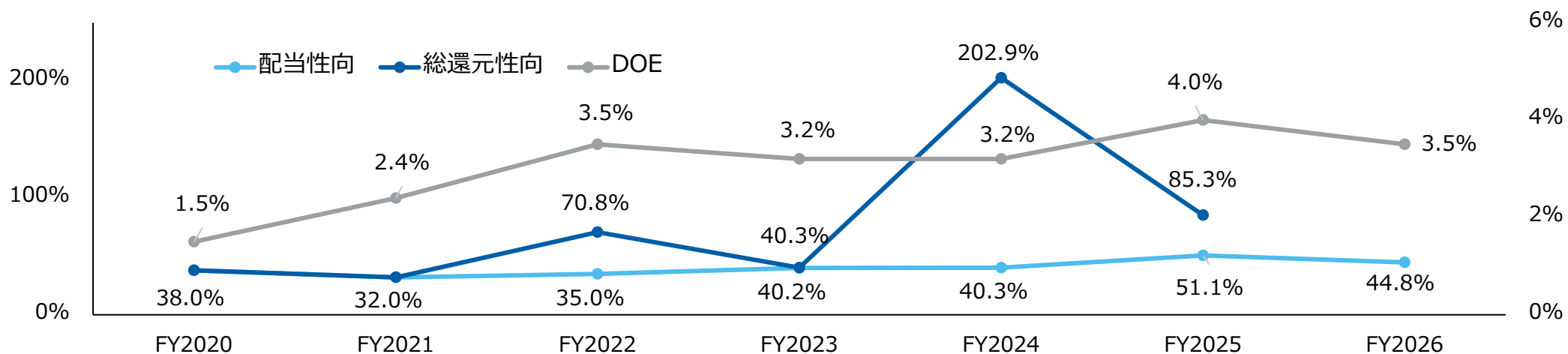
株主還元方針

配当性向45% または 株主資本配当率（DOE）3.5%のいずれか高い方

配当



配当性向
総還元性向



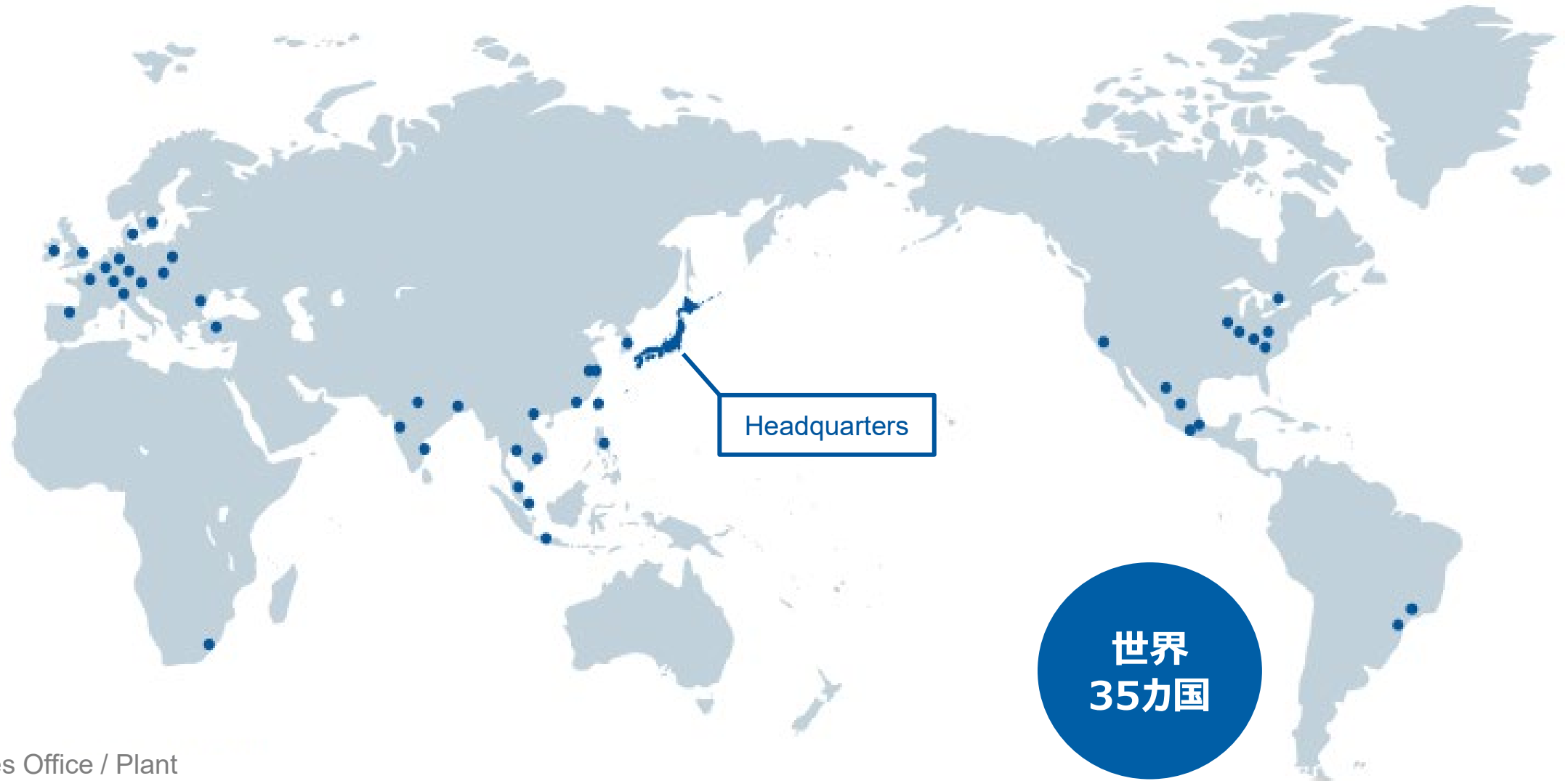
為替レート

	期間平均レート			期末日レート		
	1US\$	1Euro	1RMB	1US\$	1Euro	1RMB
FY22 1Q	115.34円	129.50円	18.16円	115.55円	129.34円	18.27円
FY22 通期	130.61円	137.60円	19.42円	138.87円	143.58円	19.43円
FY23 1Q	133.17円	142.55円	19.30円	136.33円	144.61円	19.58円
FY23 通期	140.44円	151.87円	19.79円	147.07円	161.51円	20.60円
FY24 1Q	146.68円	160.11円	20.44円	150.67円	163.25円	20.88円
FY24 通期	150.88円	163.71円	20.98円	150.74円	159.20円	20.80円
FY25 1Q	154.09円	160.29円	21.11円	149.67円	155.60円	20.50円
FY25 通期	149.91円	167.91円	20.81円	156.63円	181.60円	22.13円
FY26 1Q	155.34円	183.84円	22.39円	155.81円	183.82円	22.71円

業績・経営指標（連結ベース）

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026-1Q
売上高	(百万円)	105,561	120,198	131,368	126,964	104,388	126,156	142,525	147,703	155,517	160,619	42,627
売上高成長率(対前期)	(%)	-5.7%	13.9%	9.3%	-3.4%	-18.0%	20.9%	13.0%	3.6%	5.3%	3.3%	12.8%
売上原価	(百万円)	59,179	69,711	74,833	73,281	65,715	76,969	83,459	87,254	92,042	94,800	24,634
売上総利益	(百万円)	46,382	50,486	56,535	53,682	38,673	49,186	59,065	60,448	63,475	65,819	17,992
販売費及び一般管理費	(百万円)	28,135	31,349	34,015	34,128	30,276	33,081	37,166	40,648	44,606	45,488	11,858
営業利益	(百万円)	18,246	19,137	22,520	19,554	8,396	16,105	21,898	19,800	18,868	20,330	6,134
経常利益	(百万円)	17,813	19,144	22,567	19,710	8,950	16,141	23,648	21,350	19,825	22,354	6,694
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	10,134	13,993	14,710	13,686	5,639	10,989	16,534	14,307	13,439	14,334	5,040
売上総利益/売上高	(%)	43.9%	42.0%	43.0%	42.3%	37.0%	39.0%	41.4%	40.9%	40.8%	41.0%	42.2%
販売費及び一般管理費/売上高	(%)	26.7%	26.1%	25.9%	26.9%	29.0%	26.2%	26.1%	27.5%	28.7%	28.3%	27.8%
営業利益/売上高	(%)	17.3%	15.9%	17.1%	15.4%	8.0%	12.8%	15.4%	13.4%	12.1%	12.7%	14.4%
経常利益/売上高	(%)	16.9%	15.9%	17.2%	15.5%	8.6%	12.8%	16.6%	14.5%	12.7%	13.9%	15.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益/売上高	(%)	9.6%	11.6%	11.2%	10.8%	5.4%	8.7%	11.6%	9.7%	8.6%	8.9%	11.8%
平均為替レート 1USD	(円)	109.78	112.33	110.53	109.36	106.94	109.41	130.61	140.44	150.88	149.91	155.34
平均為替レート 1Euro	(円)	121.39	126.20	130.68	122.53	121.60	130.04	137.60	151.87	163.71	167.91	183.84
総資産	(百万円)	156,081	166,712	178,020	190,414	200,112	209,757	228,852	250,124	257,256	267,699	265,187
自己資本	(百万円)	92,216	115,810	125,332	129,078	129,338	143,811	164,659	181,561	166,633	180,811	182,358
1株当たり当期純利益	(円)	110.59	153.70	150.47	140.06	57.94	112.63	171.54	149.29	148.94	172.11	61.35
1株当たり配当金（中間）	(円)	22.00	21.00	22.00	23.00	11.00	14.00	23.00	28.00	28.00	28.00	(予定)39.00
（期末）	(円)	28.00	25.00	25.00	24.00	11.00	22.00	37.00	32.00	32.00	60.00	(予定)45.00
1株当たり純資産	(円)	1,024.34	1,191.65	1,279.29	1,328.08	1,327.22	1,472.45	1,721.14	1,892.35	1,962.21	2,200.98	2,219.86
期中平均株式数	(千株)	91,640	91,044	97,761	97,716	97,335	97,573	96,388	95,838	90,233	83,289	82,149
ROA（営業利益ベース）	(%)	11.7%	11.9%	13.1%	10.6%	4.3%	7.9%	10.0%	8.3%	7.4%	7.7%	9.2%
ROE	(%)	10.4%	13.5%	12.2%	10.8%	4.4%	8.0%	10.7%	8.3%	7.7%	8.3%	11.1%
自己資本比率	(%)	59.1%	69.5%	70.4%	67.8%	64.6%	68.6%	72.0%	72.6%	64.8%	67.5%	68.8%
総資産回転率	(回)	0.68	0.74	0.76	0.69	0.53	0.62	0.65	0.62	0.61	0.61	0.64
営業CF	(百万円)	16,333	20,820	20,310	19,261	17,038	26,982	20,175	23,331	28,557	26,389	-
投資CF	(百万円)	-16,843	-7,566	-13,351	-20,314	-17,133	-6,961	-12,170	-8,543	-21,741	-13,976	-
財務CF	(百万円)	-778	-11,137	-4,723	3,465	9,658	-14,264	-14,740	-3,831	-7,985	-15,035	-
キャッシュフローマージン	(%)	15.5%	17.3%	15.3%	15.1%	16.3%	21.4%	14.2%	15.8%	18.4%	16.4%	-

OSGグループネットワーク





shaping your dreams



中期経営計画

Beyond the Limit 2027
Stage2

2025年11月期～2027年11月期

変遷（次なる成長へ事業基盤が整う）

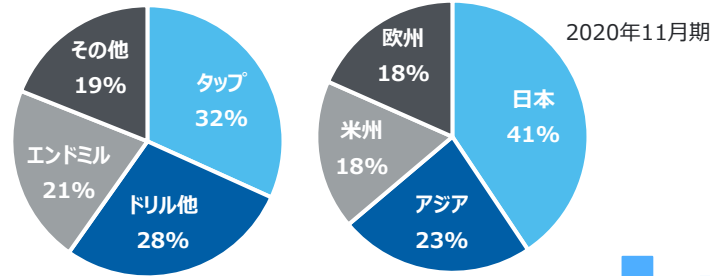
地球会社

グローバルネットワークの構築



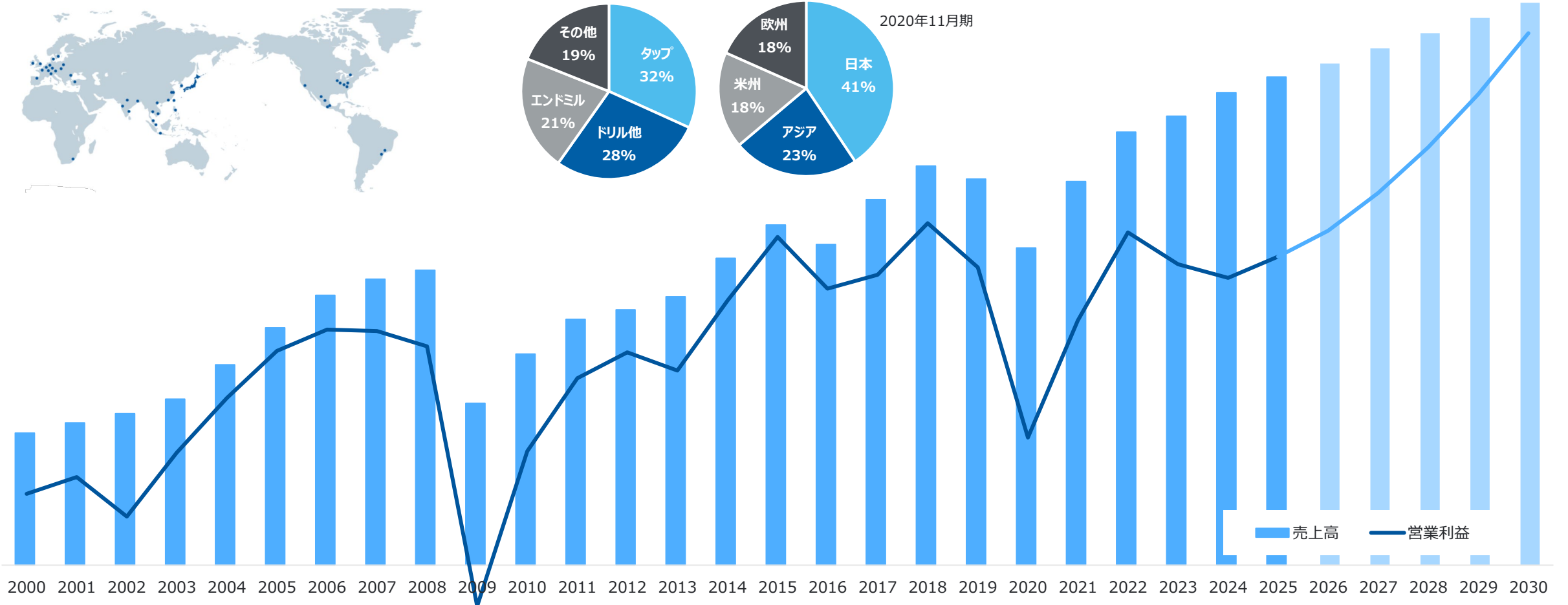
世界No.1の穴加工切削工具メーカー

M&A戦略により、地域・製品両面で安定的かつ均衡の取れた事業ポートフォリオを実現



エッセンシャルプレーヤー

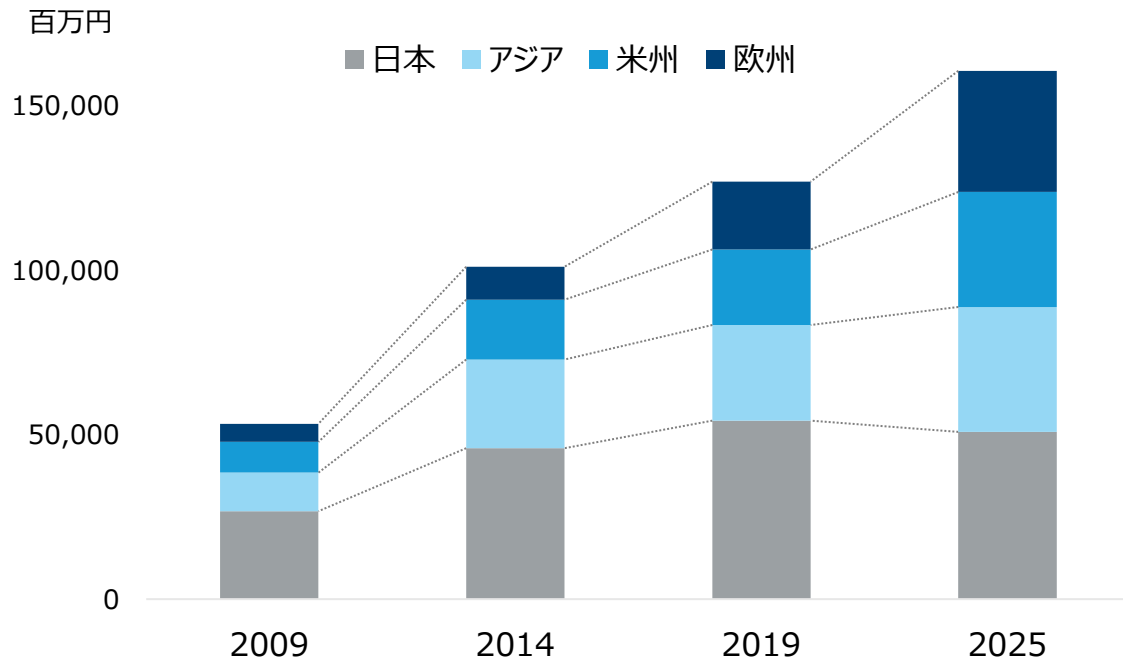
お客様の挑戦を支える存在として、共に利益と持続可能な未来の実現を目指す



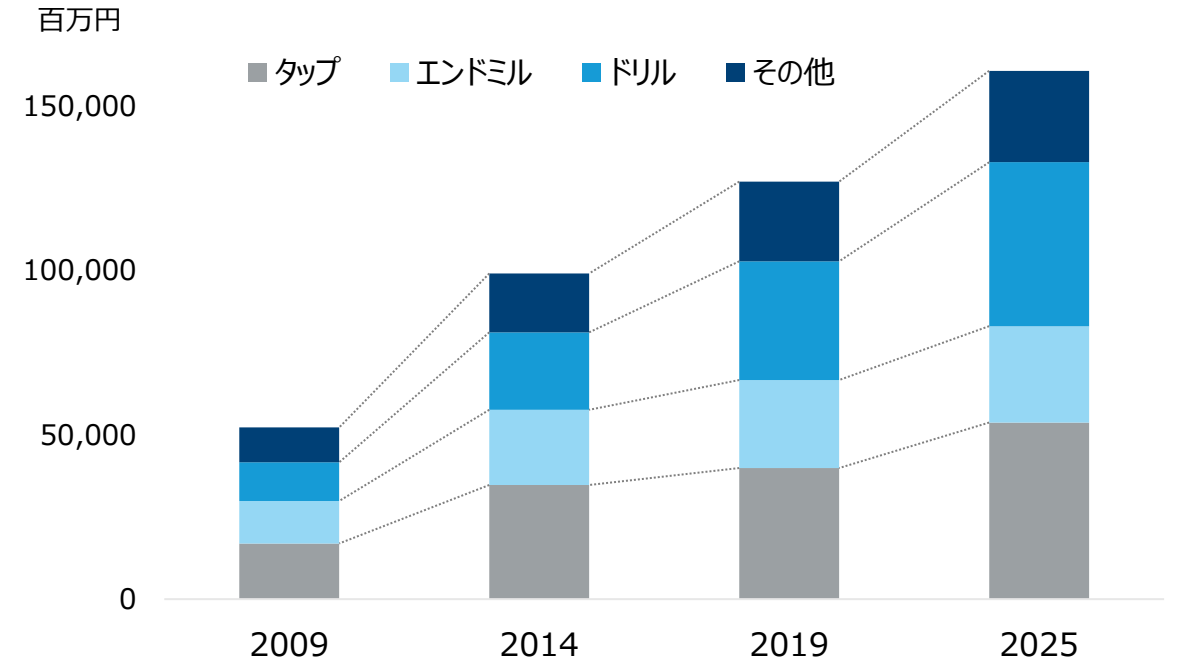
地域・製品の両面でバランスの良い事業基盤を確立

戦略的な地域展開と注力産業の多角化により、日本国外でのプレゼンスを高めるとともに、トップに偏らないバランスの取れた製品構成を実現、切削業界において最高水準の成長を遂げました。将来の持続的成長に向けた強固な事業基盤も着実に構築しています。

地域別外部顧客向け売上（実績）の推移



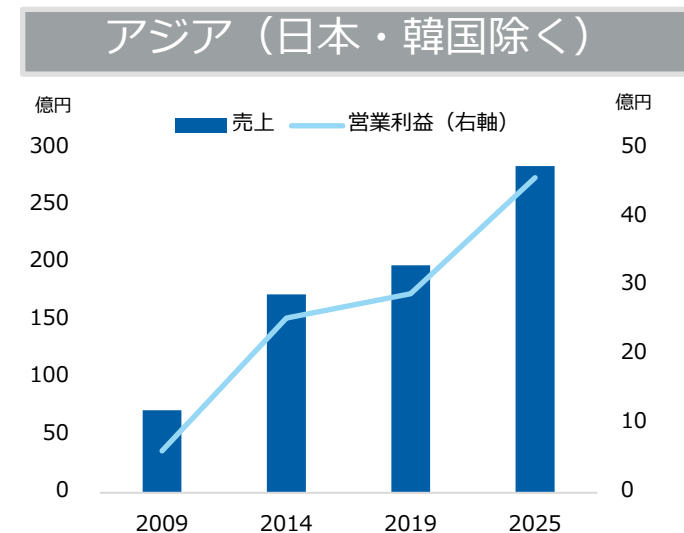
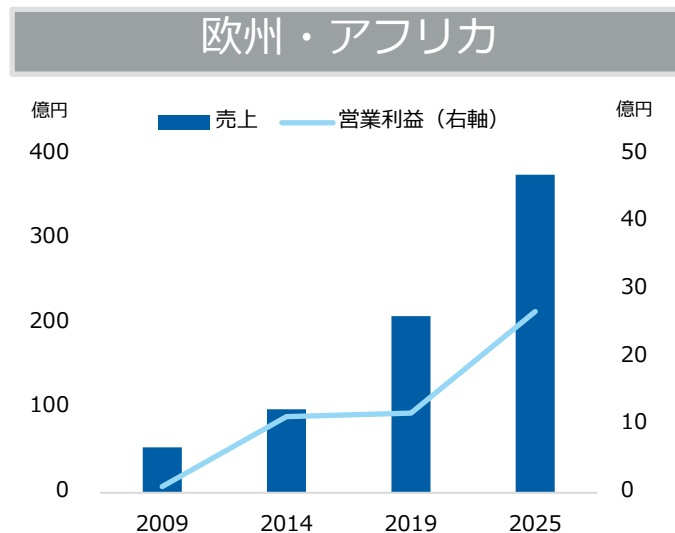
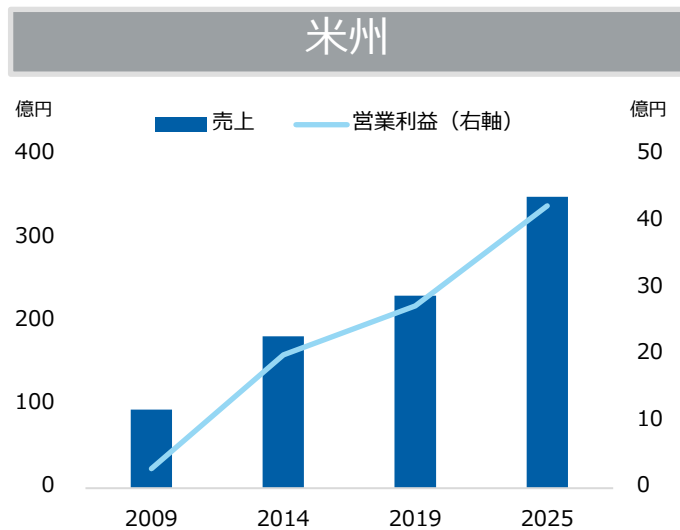
製品別売上（実績）の推移



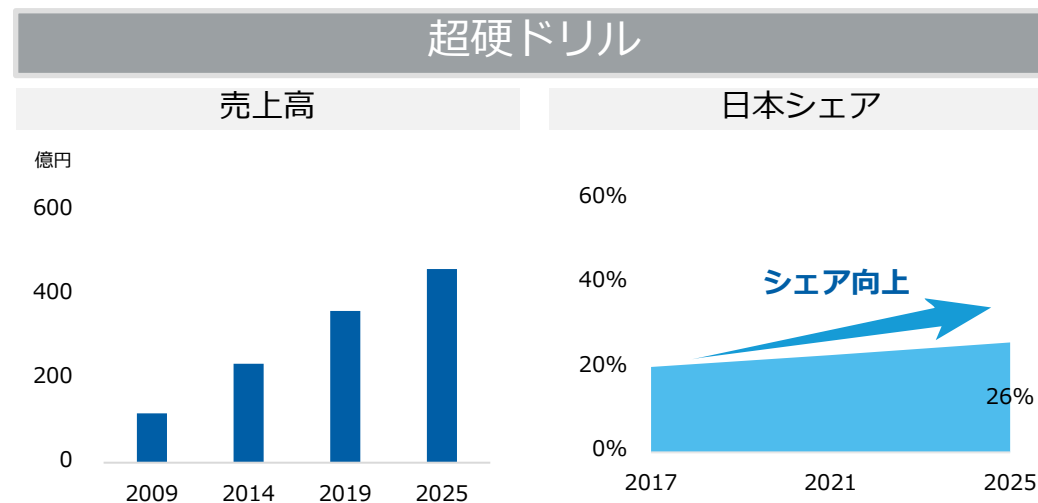
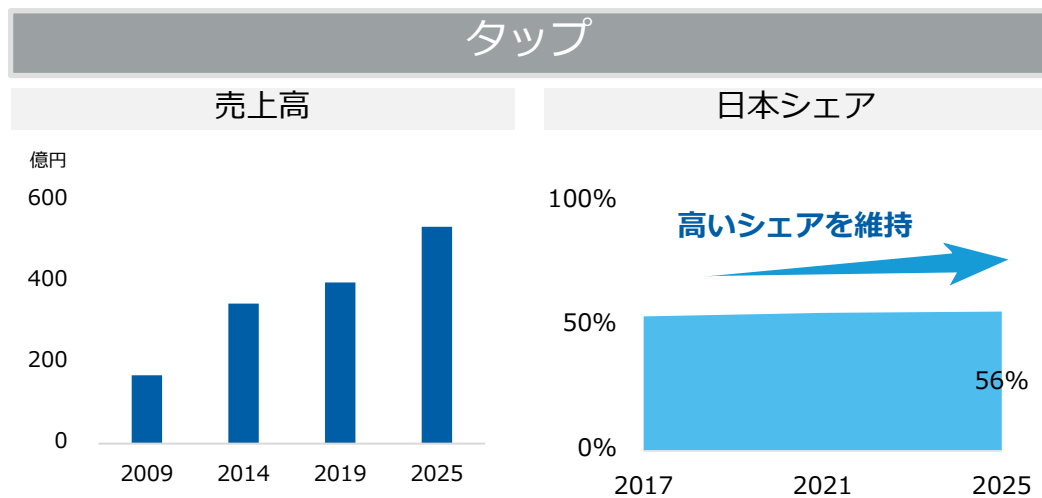
地域別・製品別実績推移

日本国外での規模拡大は著しく、特に穴加工工具であるタップと超硬ドリルは大きく成長しました。

地域別
売上高
営業利益率



製品別
売上高
日本シェア



出所:日本シェア「日本工作機械工業会の統計調査データ」



Beyond the Limit

変化の激しい市場環境の中にあっても、確かな価値を提供し続けると同時に、持続的に利益を創出できる強靱な企業体質の実現に向け、事業効率の改善に取り組みます。

Beyond the Limit
2022-2024 (Stage1)

Beyond the Limit 2025-2027
(Stage2)

Beyond the Limit
2028-2030 (Stage3)

2027/11 計画

ROE
10%超

営業利益率
16%超

収益性向上の取り組み

- ① Aブランドを中心とした高付加価値製品の売上拡大
- ② 微細・精密加工向け工具の売上拡大
- ③ 生産性及び業務効率化による原価改善
- ④ 製品シリーズ・価格見直し
- ⑤ 販管費比率の低減
- ⑥ BSマネジメント施策の実施

中計Stage2概要 (1/2) - 事業成長戦略

	製品	戦略方針	主な産業
主力事業 成長を牽引	タップ	品質向上や競争力のある新製品の投入を通じて、開発・技術・生産・営業が一体となってシェア拡大を目指します。また、高付加価値のAブランドシリーズの拡販を推進し、 タップの世界シェア40% を目指します。	電子部品 エネルギー モビリティ 一般部品
	転造工具	創業製品のタップに次ぐ歴史の長い製品。製造工程やサプライチェーンの見直しにより価格競争力を強化し、 グローバル展開 を一段と加速させます。売上倍増とともに利益率の改善もを目指します。	航空機 エネルギー モビリティ 一般部品
注力事業 今後の成長に繋がる事業領域の拡大	微細・精密工具 超硬 DIA/CBN	部門横断型営業組織であるGIGSセールスグループの活動強化とともに、新製品の投入により 微細・精密加工用工具 の売上拡大を図ります。さらに、 ダイヤモンド のグループ会社を中心にレンズ業界など既存産業以外の新規分野の開拓も進めます。	電子部品 航空機 エネルギー モビリティ 医療 金型 一般部品
	コーティング	高付加価値のコーティングビジネスは、中長期的にも拡大が見込まれます。自社製品の競争力向上に資するコーティング開発を進めるとともに、工具以外の多様な製品を対象とした ジョブコーティング サービスの拡大を一段と加速します。	電子部品 医療 金型 工具 一般部品

中計Stage2概要（2/2） - 経営基盤強化

事業効率と資本効率を改善し企業価値を高める

領域	戦略方針	取り組み				
オペレーション	<p>労働力不足への対応を見据え、デジタル技術を活用して、生産・営業プロセスの簡素化と効率化を進め、生産性および収益性の向上を図ります。あわせて、自社製機械設備の導入による生産体制の複合化・省人化を推進し、柔軟で強靱な事業基盤の構築を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業効率の向上 DX技術革新への対応 情報セキュリティ強化 				
組織・人的資本	<p>適材適所の人員配置や自主性・組織力を高める人財育成を進め、社員一人ひとりの価値を最大化する人事施策を推進します。社員が働きがいを感じ、安心して挑戦できる職場環境を整備するとともに、絶えず変化する社会環境の中でも変化を厭わず挑戦を続けることで、社員と会社がともに成長し、企業価値の向上を実現します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人財の能力向上 働きがいのある職場環境の整備 エンゲージメント向上 				
サステナビリティ	<p>2030年にCO₂排出量を2024年度比20%削減、2050年にカーボンニュートラル達成を目指し、Scope1・2の排出削減、Scope3の算定、主力製品のCFPの算定による環境負荷の見える化を推進します。運用改善による電力使用量削減と再生可能エネルギーの活用により、資源循環型社会の実現を目指します。</p>	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1849 851 2099 933">KPI (FY2027)</th> <td data-bbox="2109 851 2471 1053"> <ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量の削減 カーボンフットプリントの算定 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1849 953 2099 1048">20%</td> <td></td> </tr> </table>	KPI (FY2027)	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量の削減 カーボンフットプリントの算定 	20%	
KPI (FY2027)	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量の削減 カーボンフットプリントの算定 					
20%						
財務・資本政策	<p>既存事業の成長戦略に加え、M&Aを含む積極的な成長投資を継続します。さらに、株主還元やIR活動を通じて株主資本コストの低減を図り、資本効率を高めることで、ROE10%超を目指します。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1849 1079 2099 1276">ROE 10%超</td> <td data-bbox="2109 1079 2471 1282"> <ul style="list-style-type: none"> 最適資本構成の構築 成長分野への戦略投資 株主還元の強化 </td> </tr> </table>	ROE 10%超	<ul style="list-style-type: none"> 最適資本構成の構築 成長分野への戦略投資 株主還元の強化 		
ROE 10%超	<ul style="list-style-type: none"> 最適資本構成の構築 成長分野への戦略投資 株主還元の強化 					

事業機会と成長分野

既存産業向け売上拡大の取組みを継続する一方、今後の成長が期待される医療・モビリティ・AI・エネルギー・宇宙などの開拓を進めることで、顧客産業の伸びを上回る成長を目指します。



※各産業分野の画像はすべてイメージ

Aブランド/The A Brand

Aブランドは高品質、高性能にも関わらず価格を抑えたOSGのフラッグシップ製品として2015年に誕生。A-TAPを皮切りに、A-DRILL、A-ENDMILLと広げ、現在もラインナップを拡充し続けています。

Aブランドを中心とした高付加価値製品の売上拡大

ポイント1

Aブランドの新製品を
短いサイクルで発表



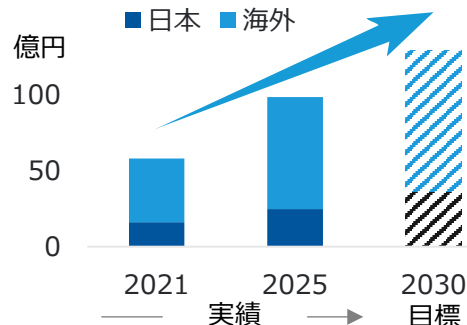
A-TAP

世界が欲しがる製品づくりでタップシェア40%を目指す

【A-TAPの強み】

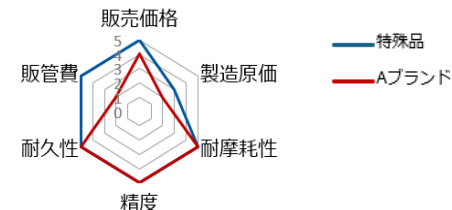
- 機械設備を選ばず、最新鋭のマシニングセンターに取り付ければ最高のパフォーマンスを発揮
- 幅広い被削材を加工することが可能
- 切り屑の排出性能が高い設計と耐摩耗性に優れたコーティングで工具の長寿命化を実現した環境配慮型の製品

日本だけでなく、北米、欧州、中国でも高い評価を得ており、日本市場と同規模の売上を各地域で獲得しています



ポイント2

Aブランドは収益性が高い



ADO-MICRO (オイルホール付小径超硬ドリル)

新製品で小径分野でもシェアを拡大する

【ADO-MICROの強み】

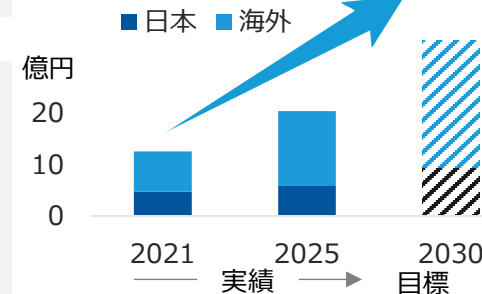
- オイルホール付きの小径ドリルを製造販売している競合他社が少ない
- 高付加価値製品のため、高価格での販売が可能
- 欧州は加工能率を重視する傾向があるため、内部給油を利用した機械設備が浸透しており、当社製品は高い評価を得ている

【用途一例】

- シャワープレート：半導体製造装置部品（主にエッチング装置等でガスを均一に分配する部品）
- DPF金型：自動車排ガス浄化フィルタ等のセラミックハニカム構造体を製造するための押出成形金型等



欧州では日本市場以上の売上を獲得



微細・精密加工（ダイヤモンド工具、医療）

ダイヤモンド工具

関連するグループ会社	用途市場	注カエリア
<ul style="list-style-type: none"> オーエスジーダイヤモンドツール Contour Fiudi 等 	半導体製造装置・検査装置用部品、レンズ、精密金型、医療用具、自動車・航空機部品 等	日本、台湾、南アジア、中国

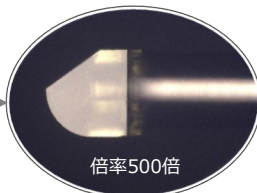
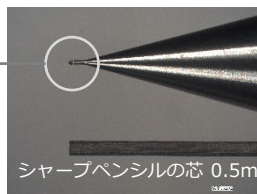
ダイヤモンド工具事業に関する説明

製品

事業説明

ダイヤモンド工具はアルミニウム、銅、超硬合金、ガラス、プラスチック、CFRP、セラミックス等の非鉄・複合材料の加工を対象としているものの、用途は精密加工に限りません。**近年は振動切削技術の進化により鉄系材料の加工も可能となり、市場は従来の想定以上に拡大しています。**

極小径の単結晶ボールエンドミル



カタログ発行

ダイヤモンド工具に関する正しい知識を広めることで市場拡大を図るべく、教科書兼カタログを発行しました。価格、納期、取扱いに関する誤解が普及の障壁となつていますが、**教科書を通じて理解を深めることで、超硬工具からの代替提案による新規需要を創出し、国内製造業の高度化と当社の成長につなげてまいります。**

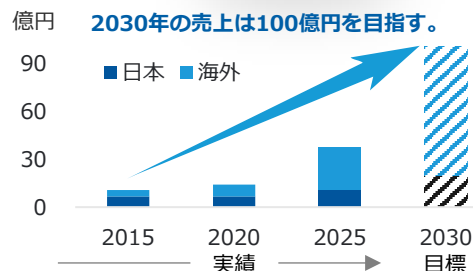
タイアップ

牧野フライス製作所様：搭載工具の製造販売
多賀電気様：楕円振動切削用工具の製造販売
芝浦機械様：ナノ加工システム用工具開発予定

再研磨

刃先のダイヤモンドは再研磨を行うことで繰り返し使用できるほか、シャンクや母材に取り付けて使用するチップ式はダイヤ素材を張り替えることができます。

ダイヤモンド工具の売上見込み



医療

関連するグループ会社	用途市場	注カエリア
<ul style="list-style-type: none"> OSG Winglit 等 	歯科補綴物（ほてつぶつ）、人工骨、人工関節 等	日本、欧州、北米、南アジア

医療関連事業に関する説明

切削対象物（例）

事業説明

歯科補綴物に使用されるあらゆる材料に適した独自の工具形状とコーティングで、歯科用CAD / CAM システムに対応した製品を世界中で展開しています。
【日本】歯科業界で使用される工具シェア6割

クラウン・ブリッジ 人工股関節

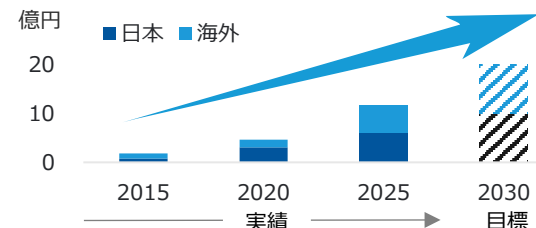


トレンド

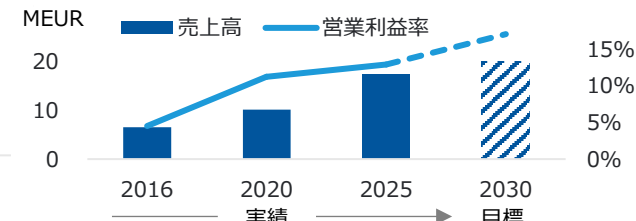
歯の健康は全身の健康やQOLに関わるため、予防や審美歯科の需要が伸びています。
【日本】2026年診療報酬改定で保険治療範囲が拡大します。2014年8本だった適用範囲が、2026年6月からほぼすべての被せ歯の治療に適用されることになりました。

医療産業向け売上見込み

歯科用工具の2030年の売上は2024年の1.5倍を目指す。



【Winglit社】1975年創業、医療用工具を製造販売する会社（2017年買収）



コーティング（ジョブコーティング事業）

関連するグループ会社	用途産業	注力エリア
OSGコーティングサービス（日本） 大宝鈦金科技股份有限公司（台湾） Primcoat PVD Technology（インド） Perform Coat（アメリカ、スイス） PRIMUS COATING（ドイツ）等	金型 電子部品 医療 機械部品 工具	ドイツ インド トルコ ベトナム

コーティング事業の展開

コーティング拠点は世界16カ国、34拠点（連結会社30拠点、非連結会社4拠点）



競争優位性の源泉（How to Win）

コーティング設備を自社製造していることから、コスト競争力が高い

コーティング専門メーカーに劣らないコーティングの種類と精度

金型等のコーティングの隙間で工具のコーティングが可能であり、生産効率が高い

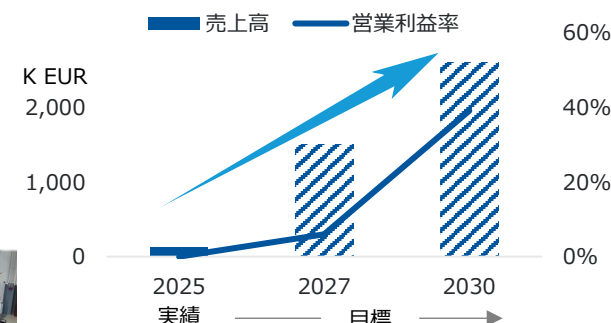
コーティングの拠点は世界に34拠点あり、お客様の世界進出をサポート可能

コーティング事業は金型へシフト

コーティング事業は初期投資はかかるものの、工具に比べて金型用のコーティングは高単価のため5年程度で投資回収を見込む

ドイツにおけるコーティング事業の展開

- 2025年3月にドイツのフライブルグで Primus Freiburgが稼働開始
- ダイキャスト金型のコーティングも可能な大型炉（最大積載量2トン）を開発
- 寡占市場の開拓

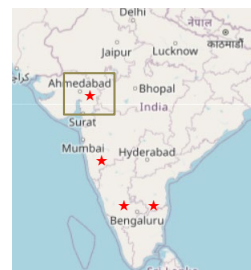


ドイツにおけるジョブコーティングの市場規模300億円超

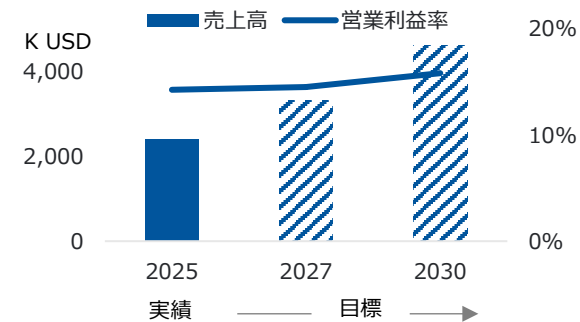
インドでは4拠点目のコーティング新工場を建設中

新工場を建設中

グジャラート州アーメダバート
2026年5月稼働開始予定



35~100km圏内に大手自動車メーカー各社



インドにおけるジョブコーティングの市場規模100億円超

重電・半導体

AIの普及、クラウドサービスの拡大等、デジタル化の進展に伴いデータセンターの電力消費や異常気象による電力需要が年々増加しています。

重電

トレンド

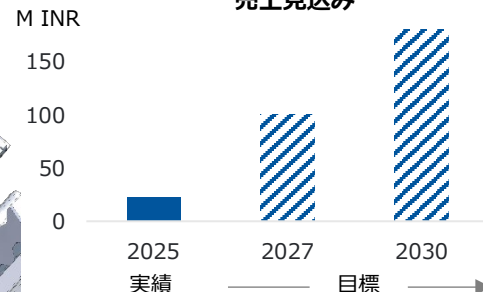
- 需要の増加により世界中で電力炉の建設が進んでいますが、今後は効率が良く環境性能の高い高機能な電力炉の建設も続きます。
- 発電用タービンに当社のクリスマスカッターが使用されますが、**生産が追い付かないほど受注が旺盛。**
⇒設備投資を順次行い生産体制を整えていきます。

- インド政府系のパワープラント最大手メーカーからクリスマスカッターを受注。インドは国内のみならずこのパワープラント事業を中東、アフリカへ輸出する戦略を進めており、今後も大きく伸びる市場です。

インド市場



インドにおけるクリスマスカッター
売上見込み



半導体

トレンド

世界のデジタル化進展と共に今後更に半導体の需要が増加します。半導体製造装置は、極めて高い精度・耐腐食性・耐熱性・耐プラズマ性・クリーン性等が求められるため、超合金のほか、セラミックス、高純度ガラスや石英、高機能樹脂等さまざまな高機能材料が使用されています。中には、硬脆材といって硬度は高いが衝撃に弱いという両極端な性質を持つ材料もあります。

課題

- 硬脆材は一般的な加工方法（切削加工と放電加工）では、加工時間が長く生産が高まらない。

解決策

- 新たに6C x OSGブランドを立ち上げ、硬脆材を高効率・高精度で直彫り加工し、加工時間の短縮と加工コストの削減を実現しました。



顧客産業別ポートフォリオ（目標）

事業環境に左右されにくいバランスの取れた顧客産業別ポートフォリオへの変革を進める
Aブランドや微細・精密加工向け工具の売上比率を高めることで収益性を改善する

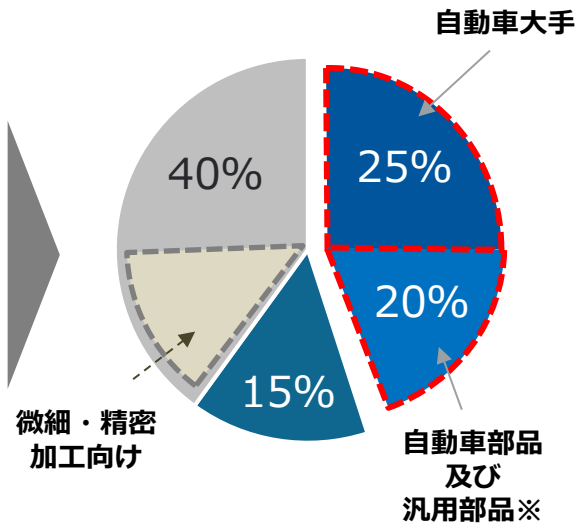
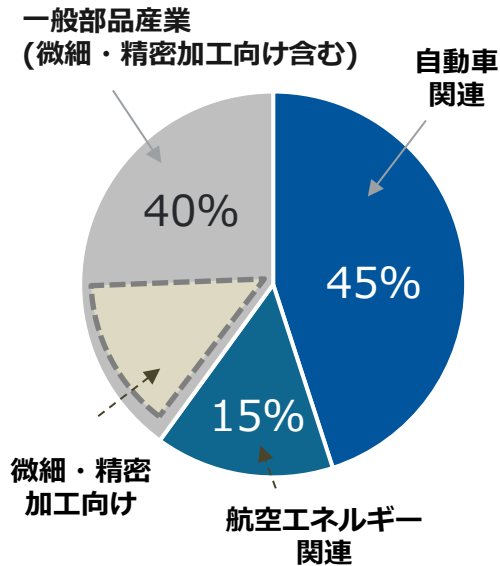
Beyond the Limit
2022-2024 (Stage1)

Beyond the Limit
2025-2027 (Stage2)

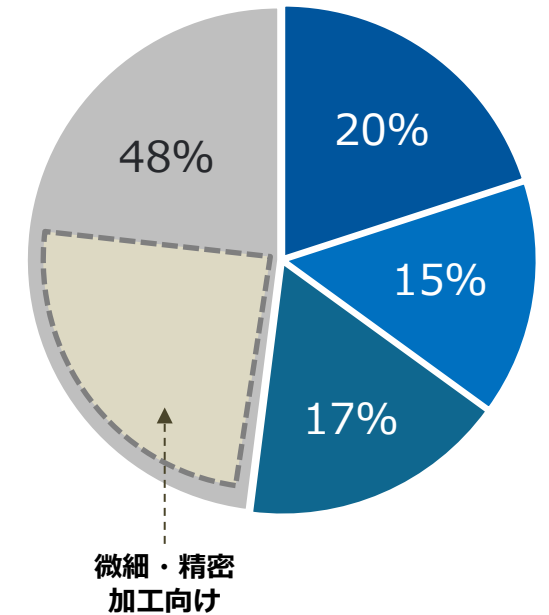
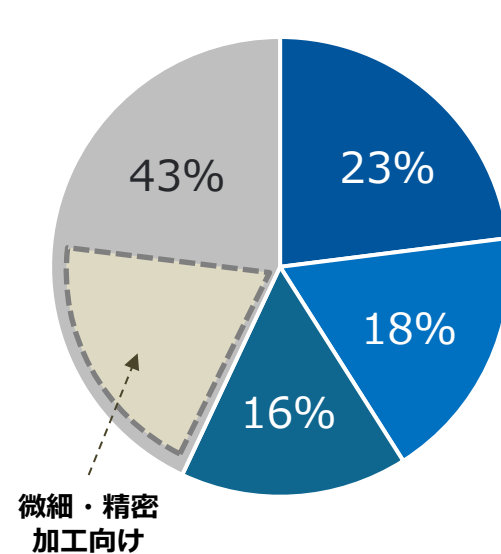
Beyond the Limit
2028-2030 (Stage3)

従前掲載

区分変更後



※自動車以外の産業用途にも展開する顧客動向の変化に鑑み、区分を変更

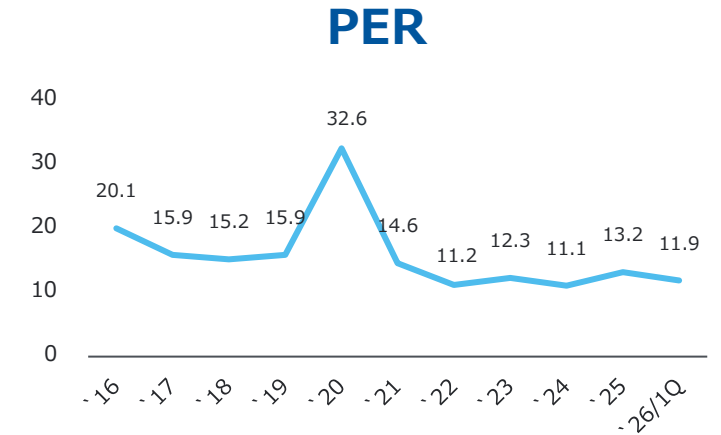
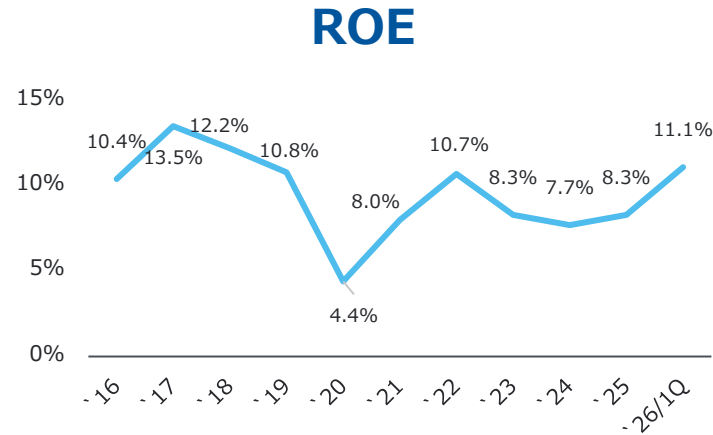
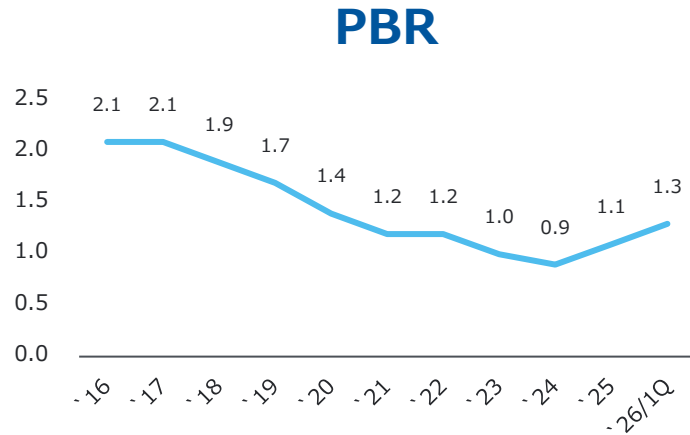
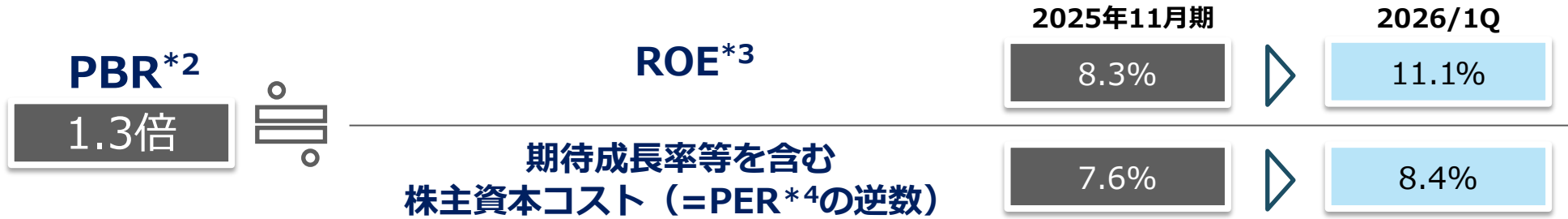


財務資本政策（現状）

更なる持続的成長と資本効率改善を通じて、中計Stage2に掲げるROE目標10%超を実現します。

株主資本コストを低減しつつ、それを上回るROEを目指す（=エクイティ・スプレッド^{*1}の最大化）

*1: エクイティ・スプレッド = ROE - 株主資本コスト

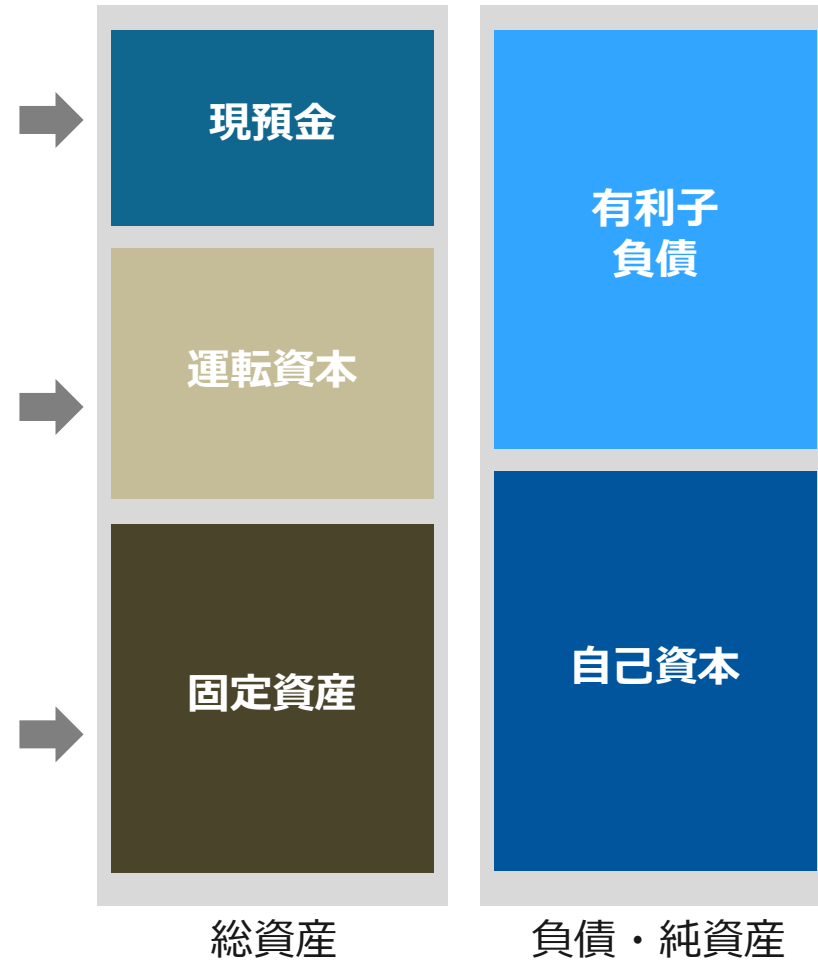


*2: PBR = 時価総額（自己株式除く）÷ 自己資本
 *3: ROE = 親会社帰属当期純利益 ÷ 自己資本
 *4: PER = 時価総額（自己株式除く） ÷ 親会社帰属当期純利益
 注1: 時価総額 = 株価（月末終値 ※年度末 or 四半期末） × 発行済株式数（自己株式を除く。 ※年度末 or 四半期末）
 注2: 自己資本 = 純資産合計 - 新株予約権 - 非支配株主持分。期首・期末平均
 注3: 算出基準日 = 株価は2026年2月28日の終値ベース。

財務資本政策

バランスシートの改革を行い、最適な成長投資と株主還元の強化を目指す

- 成長投資（M&A、設備投資、研究開発費等）や株主還元を活用
- グループ内のキャッシュ・アロケーションの見直し
- CCC短縮によるキャッシュの創出（在庫圧縮、回収・支払サイトの見直し）
【棚卸資産回転期間の目標】
2024年 4.4ヶ月
2030年 3.5ヶ月（目標）
- 減価償却費をベンチマークとした設備投資
- 政策保有株式の削減



- 負債の活用によるWACCの低減
- 最適な資本構成の追求

- IR活動を通じた株主資本コストの低減
- 株主還元の強化（配当性向の引き上げ、自社株買い）

キャッシュアロケーション計画

営業キャッシュフローについては **戦略投資**へ主に投入し、**株主還元**の強化も図り、財務構成を見直す

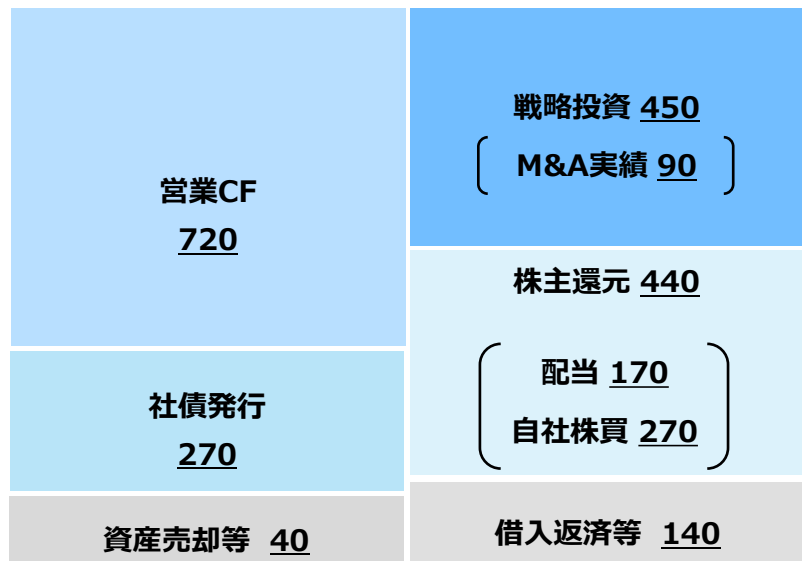
Stage1 実績

(2022年11月期～2024年11月期)

億円

Cash In
1,030

Cash Out
1,030



Stage2 計画

(2025年11月期～2027年11月期)

億円

Cash In
1,300

Cash Out
1,300



- 超硬エンドミルの新工場建設
- 微細・精密工具等成長領域向けの生産設備増強
- 戦略的M&A
- 自動化・省人化設備への投資
- DX推進
- 安定的・継続的な配当
- 機動的な自社株買いを実施

サステナビリティの取り組み

2025年度の取り組み

1. 算定ツールを活用したグループ会社のScope 1.2 データ収集
2. CO₂排出量削減への取り組み (Scope 1.2) 各製造部
3. Scope3算定中 (連結)
4. 国内主要製品のカーボンフットプリント (CFP) 算定
5. 太陽光パネル設置による再エネ活用 計画 (大池新工場 28年)
6. あいちペロブスカイト推進協議会への参画

Stage2

2025-2027

連結での取り組みへ拡大

- CO₂排出量20%削減 (単体19年度比)
- Scope3の算定
- カーボンフットプリント算定
- 再エネの追加導入検討
 - 大池工場
 - 他事業所

Stage 1

2022-2024

カーボンニュートラルに向け始動

- CO₂排出量10%削減 (19年度比)
 - ✓ 実績 19%削減
- Scope1.2の算定 (連結)
- 再エネの導入
 - オフサイトPPA
 - オンサイトPPA (新城)

Stage3

2028-2030

連結での削減推進

- CO₂排出量20%削減 (連結24年度比)
- SBT認証取得
- 再エネの追加導入検討
 - 最新太陽光パネル等検討

カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

OSGグループ全体のCO2削減ロードマップ

